

平成30年度 地域連携事業報告書

地域教育実践研究センター



学校法人福原学園
九州女子大学・九州女子短期大学

目 次

第1章 大学における地域連携について

I. 大学が地域連携する意味	2
II. 組織と業務内容	3
1. 組織	
2. 業務内容	
3. 外部評価	
III. 平成30年度の地域連携事業実績一覧	4

第2章 平成30年度の地域連携事業

I. 芦屋町との包括的連携事業	6
1. さわらサミット推進プロジェクト	
2. 芦屋町課題発見プログラム	
3. 地域交流サロンにおける公開講座	
4. キャラバン隊による模擬保育	
5. 芦屋町祖父母学級における公開講座	
II. 北九州市との連携事業	14
1. 大規模型公開講座の実績	
2. 通常型公開講座の実績	
3. 公開講座の実施内容	
III. インターンシップ推進事業	18
1. インターンシップの種類	
2. インターンシップ参加スケジュール	
3. 各インターンシップの実績	
IV. 学生ボランティア事業	22
1. グリーンティーチャー	
2. 病院・施設ボランティア	
3. 図書館ボランティア	
4. 幼稚園・保育所・施設ボランティア	
5. キャラバン隊	
V. その他の地域連携諸事業	24
1. 北九州・下関まなびとびあへの参画(COC+事業)	
2. 北九州商工会議所との連携事業	
3. 北九州ゆめみらいワークへの出展	
VI. 研究活動	25
1. 学会報告：地域活性学会「第10回研究大会」	
2. 研究事業：水巻町との災害食レシピ開発	
3. 研究事業：水巻町の地域資源を活用したレシピ開発	

第3章 学外実習・介護等体験および教員免許状更新講習等

I. 平成30年度学外実習・介護等体験の実績	28
II. 教員免許状更新講習の受講者推移(平成21年度～平成30年度)	29
III. 2019年度教員免許状更新講習の開設予定講座	29

参考資料

I. 地域教育実践研究センターの各種委員会構成員	30
II. 地域教育実践研究センターの運営委員会等年間実績	30
III. 地域教育実践研究センター外部評価委員会報告	31
IV. 地域教育事業一覧(平成25年度～平成29年度)	31
V. 地域活性学会「第10回研究大会」発表要旨	32

インターンシップ書式
登録票・報告書

ボランティア等書式
登録票・出勤簿・活動日誌

I. 大学が地域連携する意味

本学は、「地域に根差した実践教育を展開する大学」として、これまで取り組んできた教育・研究を地域社会の発展に資するため、平成27年6月1日に地域教育実践研究センターを設置した。

地域教育実践研究センターでは、学部・学科、および教員個々が実施してきた地域との関わりについての実態調査や地域が抱える課題や要望等を把握のうえ、「学生の質保証の強化」、「大学の教育・研究機能の活用」および「地域社会との共生」の3本柱を軸として、地域連携事業の在り方を検討し、本学の地域貢献(型)による大学創りに取り組む。

学生の質保証の強化

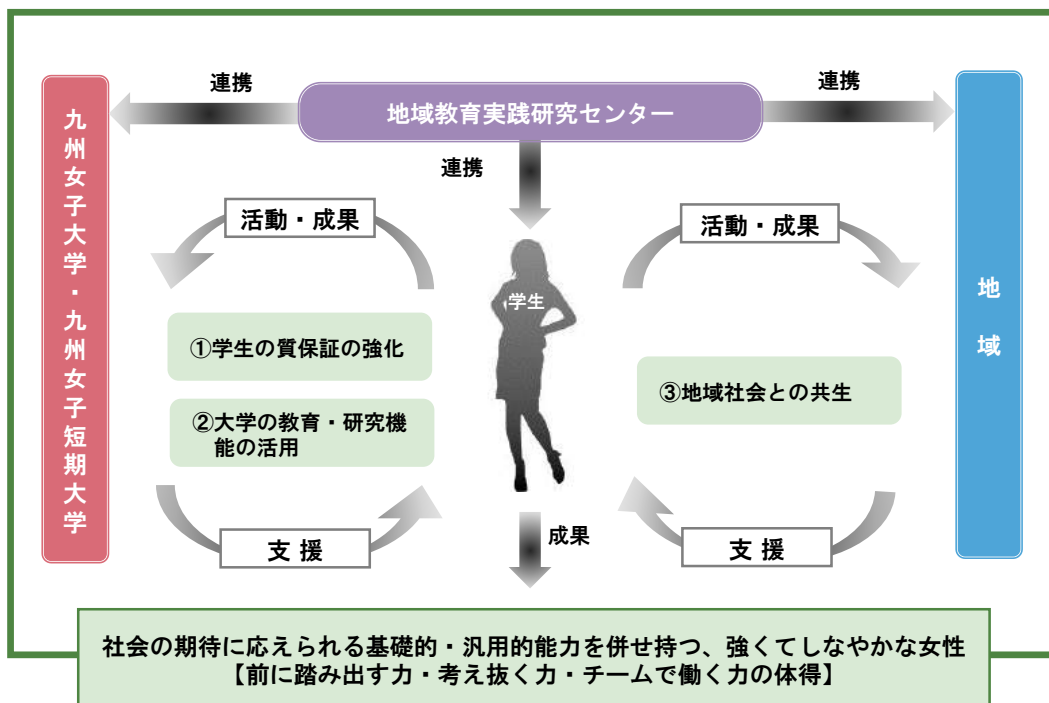
- ・地域課題(ニーズ)と大学資源(シーズ)を把握し、地域の課題を解決するため、学生ボランティアの育成を実践するとともに、学生の実学的教育を実践する。また、学生自身の研究テーマを設定して臨地研究を行うことにより、学生の研究論文に繋げていく。

大学の教育・研究機能の活用

- ・地域課題の現状調査を行い、データを分析し、これに対応する教育プログラムを作成する。また、教員による地域への出前型講座等を学生ボランティアと実践し、事業評価を行う。将来的には、「地(知)の拠点」として地域(自治体・企業等)と地域課題を解決する補助事業や共同研究の実施も視野に入れる。

地域社会との共生

- ・本学と自治体が組織的・実質的に協力し、地域課題と大学資源のマッチングにより、地域と大学が必要と考える取り組みを実践することで、地域との共生を実現させる。



II. 組織と業務内容

1. 組織

地域教育実践研究センターの適正な管理運営を図るため、「地域教育実践研究センター運営委員会」（以下、「運営委員会」）を設置している。運営委員会は、センター所長、センター副所長、教務部長、学生部長、事務局長、大学・短大の各学部等から学長が推薦する教育職員、その他学長が必要と認めた職員で組織している。組織的に事業に取り組むため、事業案件を運営委員会で審議・決定し、本学の評議会に審議事項を上申している。また、事務を所管するのは、センター所長、センター副所長、事務職員が行う。

さらに、地域教育実践研究センターが各学科・専攻と十分に連携し、連携事業の企画内容をより詳細に検討するため、運営委員会の下に「地域活動推進ワーキンググループ」（以下、「地域活動推進WG」）を設置している。

2. 業務内容

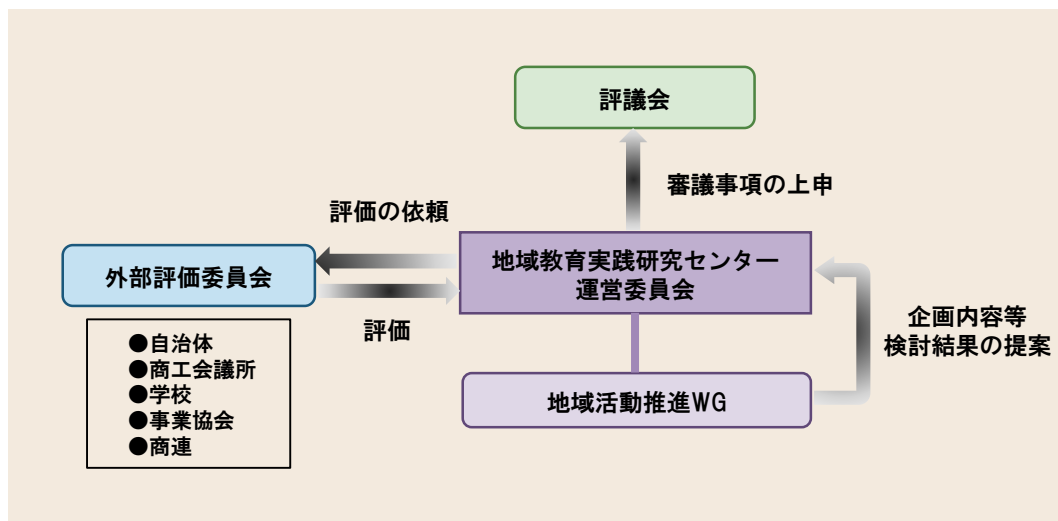
地域教育実践研究センターは、以下の業務を実践・研究するため、学科、個人単位で実施していた地域連携事業の一元化を図るとともに、外部からの依頼に関する窓口としての機能も有する。また、地域連携事業については、運営委員会の検討を踏まえ、各学部等から選出された運営委員により、学科会議等において検討内容の共有に努めることとしている。

地域教育実践研究センターの業務内容

- ①地域教育実践研究活動に関する学内情報の一元管理に関すること
- ②地域教育実践研究活動の学内外への広報ならびに情報の提供に関すること
- ③地域教育実践研究活動に関する対外的な窓口機能に関すること
- ④地域教育実践研究活動の教育実践プログラムおよび研究プロジェクトに関すること
- ⑤地域教育実践研究活動に関する連絡調整に関すること
- ⑥学校インターンシップおよび学校ボランティアに関すること
- ⑦学外実習および介護等体験に関すること
- ⑧教員免許状更新講習に関すること
- ⑨その他地域教育実践研究活動に関すること

3. 外部評価

地域教育実践研究センターの取り組みについて、学外有識者による評価を行うことで自己点検・評価活動に反映させ、客観性・公平性を担保するため、外部評価機関として「地域教育実践研究センター外部評価委員会」（以下、「外部評価委員会」）を設置している（P31参照）。



Ⅲ. 平成30年度の地域連携事業実績一覧

事業	概要
<p>I 芦屋町との包括的連携事業</p>	<p>実践教育の場で社会の期待に応えられる学生の育成、および芦屋町の地域課題解決のため、包括的地域連携協定を締結した(H28.3.29)。 本協定に基づき、連携会議を通じて以下の事業を実施した。</p> <p>1. さわらサミット推進プロジェクト 芦屋町では、ヤリイカに次ぐ水揚げがある鱈に着目したブランド化に取り組んでおり、その一貫として地域の機運醸成や人材育成を目的としたグルメイベント「さわらサミット」に取り組んでいる。昨年度に引き続き、本学の持つ様々なノウハウ活用や学生の参画により、これまでにない地域イベント創出とブランド化を図るため、以下のとおり運営に携わった(H31.2.23~24)。 ①人間生活学科による鱈の学術パネル、および課題発見プログラムの学修成果の展示 ②栄養学科による九女鱈ソーセージドックの来店 ●派遣人数：学生15人/教職員6人</p> <p>2. 芦屋町課題発見プログラム 人間生活学科のカリキュラムの中で、学生が芦屋町における課題を発見し、解決策を企画・提案するプログラムである。平成30年度は、芦屋町を訪問し、役場の若手職員(地域の住民)とのグループワーク等を通じて「芦屋の未来を考える」をテーマに設定のうえ、本プログラムを展開した。また、課題解決における具体的内容を①広報、②定住、③イベントの3カテゴリーに分類し、それぞれの解決策を役場職員の前で発表・提案した。</p> <p>3. 地域交流サロンにおける公開講座 芦屋町の地域交流の促進を図り、高齢者に学び直しの機会を提供するため、昨年度に引き続き、芦屋町の地域交流サロンにおいて、本学教員による公開講座(硬筆教室)を実施した(H31.1.22)。 ■担当教員：大迫正一 ●受講者数：18人</p> <p>4. キャラバン隊による模擬保育 九州女子短期大学子ども健康学科の学生がキャラバン隊の活動として、芦屋町の保育所・幼稚園(計3ヶ所)で模擬保育を実施した。 ①愛生幼稚園(H30.11.19) ●派遣学生数：7人 ②若葉保育所(H30.11.26) ●派遣学生数：7人 ③緑ヶ丘保育所(H30.12.17) ●派遣学生数：8人</p> <p>5. 芦屋町祖父母学級における公開講座【新規】 芦屋町の高齢者が充実したセカンドライフを歩むきっかけづくり等のため、各小学校区の祖父母学級生を対象に3ヶ所の公民館において、本学教員による漢字の成り立ちをテーマとした公開講座を実施した。 ■担当教員：古木誠彦 ①山鹿公民館(H31.1.30) ●受講者数：12人 ②芦屋町中央公民館(H31.2.22) ●受講者数：10人 ③芦屋東公民館(H31.2.28) ●受講者数：19人</p>
<p>II 北九州市との連携事業</p>	<p>本学と北九州市(子ども家庭局)で放課後児童クラブの振興を図るため、昨年度に引き続き、本学教員によるクラブ指導員を対象に応急処置をテーマとした大規模型公開講座を実施した(H30.7.2)。 ■担当教員：春高裕美 ●受講者数：92人</p>
<p>III インターンシップ推進事業</p>	<p>1. 文系インターンシップ(COC+事業) 北九州市内の学生に対して、職業意識の醸成や勉強意欲の向上、および市内企業への就職促進を図るため、市内の大学、短期大学、企業、北九州商工会議所が連携・協力し、文系学生を対象に就労体験の場を提供する事業である。 ●派遣先企業：【夏季】ネットヨタ北九州(株)/榊レディスハトヤ/榊観山 等 他3社 【春季】(株)コプロス/九州三菱自動車販売(株) ●派遣学生数：【夏季】延べ8人 【春季】延べ2人</p> <p>2. 課題解決型インターンシップ(COC+事業) 北九州商工会議所が実施主体となり、北九州市内の学生に社会的基礎力を修得させるため、地域産業や企業等の課題を題材として実施する課題解決型の事業である。 ●派遣学生数：3人</p> <p>3. (一社)九州インターンシップ推進協議会 短期仕事理解型インターンシップ 九州全体を見据えたインターンシップの推進と次代を担う若手の人材を育成するため、九州経済産業局や地元経済、主要大学による産学官が協力して実施する事業である。 ●派遣先企業：【夏季】(株)チカラ/日本生命保険(相)/第一生命保険(株) 【春季】福岡県青少年科学館 ●派遣学生数：【夏季】3人 【春季】1人</p>

事業	概要
Ⅲ インターンシップ推進事業	<p>4. 「北九州ゆめみらいワーク2018」インターンシップ【新規】 地元企業と北九州市の魅力理解と職業観を醸成するため、「北九州ゆめみらいワーク2018」に出展する地元企業を訪問し、企業や北九州市の魅力について、取材したことをイベント来場者へ紹介する事業である。 ●派遣学生数：1人</p>
Ⅳ 学生ボランティア事業	<p>【九州女子大学】</p> <p>1. グリーンティーチャー 取得免許等の学生の実践力向上を図る事業について、「グリーンティーチャー」と命名しグリーンとは、「緑の、未熟な、未経験の、元気のいい、若々しい、新鮮な」という意味を含んでいる。教育現場等において、園児や児童の指導補助・学習支援等を通し、学生の実践力を身につける本学独自の取り組み。 ●派遣学生数：幼稚園・保育所22人/小学校138人/芦屋校区土曜学び合いルーム52人/特別支援学校26人</p> <p>2. 病院・施設ボランティア 病院(病児保育)・施設(療育施設)において、多様な保育環境に対応できる保育者を育成する取り組み。 ●派遣学生数：4人</p> <p>3. 図書館ボランティア 図書館において、図書館司書資格に必要な知識と技術を実務経験を通して身につけ、現場で図書館司書の役割等を理解する取り組み。 ●派遣学生数：公共図書館等32人/学校図書室14人</p> <p>【九州女子短期大学】</p> <p>4. 幼稚園・保育所・施設ボランティア 幼稚園・保育所・施設の行事等の多様な活動において、役割や仕事を実践・思考することで、職業人として必要な力を育成する取り組み。 ●派遣学生数：150人</p> <p>5. キャラバン隊 九州女子短期大学の実践型教育として、幼稚園・保育所・施設・学校等に出向き、模擬保育や模擬授業を展開する取り組み。 ●派遣学生数：延べ74人</p>
Ⅴ その他の地域連携諸事業	<p>1. 北九州・下関まなびとびあへの参画(COC+事業) 学生の北九州・下関の定着促進を図る施策について、具体的に検討することを目的に4分野のワーキンググループが平成28年度に設置された。本学は、「低学年向けプログラムWG」に参加し、意見交換を重ねた。また、今年度から「SDGs人材育成WG」が新たに設置され、本学も当該WGに参加し、意見交換を重ねた。さらに、新たな取り組みとして、人脈構築の場、地元企業理解の促進のため、「企業と大学との情報交流会」が開催され、本学からは、学長をはじめとする15名の教職員が参加した(H30. 8. 27)。</p> <p>2. 北九州商工会議所との連携事業 北九州商工会議所会報誌「北商NEWS」の大学生プロデュースによる情報発信コーナー「キャンパス通信」に係る企画、取材、執筆等に取り組み、3回にわたって本学の記事を掲載した。 ●5月号/栄養学科 ●9月号/子ども健康学科 ●12月号/人間発達学専攻</p> <p>3. 北九州ゆめみらいワークへの出展 北九州ゆめみらいワークは、地元の魅力を知るキャリア教育のイベントとして、北九州市の主催により西日本総合展示場で開催された。本学は、「食と健康を科学する」をテーマに栄養学科による栄養診断、体力測定、味覚実験等の体験型の企画を出展し、2日間で計367名の高校生等で賑わった (H30. 8. 24～25)。</p>
Ⅵ 研究活動	<p>1. 学会報告：地域活性学会「第10回研究大会」 本学の地域教育実践研究活動をさらに発展させるため、他大学等の地域連携事業に関する研究や事例の情報等を得ることを目的に、平成28年度から「地域活性学会」の団体会員に大学として加入している。本学会の第10回研究大会が開催され、人間生活学科の教員が参加し、本学の課題発見プログラムの実践事例、および学外活動による学修成果について発表した(H30. 9. 15～16)。</p> <p>2. 研究事業：水巻町との災害食レシピ開発 平成29年度から、本学と水巻町では、災害時の食材・調理器具が満身に準備できないという状況下で、簡単でおいしい食事のレシピを開発する共同研究事業に取り組んでいる。平成30年度は、栄養学科の学生がアレルギーに対応した料理やデザートレシピを開発し、本レシピを学生と水巻南中学校の生徒が共に調理する実践講習会を開催した(H30. 11. 24)。また、平成29年度と平成30年度のレシピ開発の実績が評価され、国土交通省九州地方整備局主催の九州防災・減災シンポジウムin遠賀川(H31. 1. 24)、および北九州市主催の北九州市防災フォーラム(H31. 3. 17)に参加し、レシピの展示等を行った。</p> <p>3. 研究事業：水巻町の地域資源を活用したレシピ開発【新規】 水巻町の特産品である「でかんにんにく」のブランディングに寄与するため、学校給食の献立に活用できる「でかんにんにく」の調理レシピを16品目開発した。</p>

I. 芦屋町との包括的連携事業

平成28年3月29日、実践教育の場で社会の期待に応えられる学生を育成するため、芦屋町と包括的地域連携に関する協定を締結した。芦屋町と協定を締結することで、双方の持つ資源を結集し、行政や地域が抱える課題の解決、および社会性や実践力を身につけた学生の育成等、双方のメリットを効果的かつ最大限に活かすとともに、連携事業を推進する。

平成30年度は、さわらサミット推進プロジェクト、芦屋町課題発見プログラム、地域交流サロンにおける公開講座、キャラバン隊による模擬保育、芦屋町祖父母学級における公開講座の5事業を中心に取り組んだ。

1. さわらサミット推進プロジェクト

(1) 概要

芦屋町の特産品の一つである鯖を使った料理開発・活用を通し、芦屋町のブランド化を図るため、現在のご当地グルメの時流を取り込み、グランプリ形式のイベント「さわらサミット」が昨年度に引き続き開催された(平成31年2月23日、24日開催)。今年度で3年目となるさわらサミットのイベント運営等に本学も協力した。

(2) 実施内容

本学は、人間生活学科による学術パネルの作成・展示、課題発見プログラムの学修成果の展示、および栄養学科による「九女鯖ソーセージドック」の出店等を行った。当日は、10,595人の来場があり、大盛況のうちにサミットを終えることができた。全体の提供食数は、両日合計で5,380食となった。なお、九女鯖ソーセージドックの提供食数は、両日合計で503食となった。



鯖に関する学術パネルの展示
(歴史・食文化・漁法等)



課題発見プログラム学修成果の展示



題字：古木誠彦 准教授



鯖ソーセージドックの提供
(企画・調理・販売)



2. 芦屋町課題発見プログラム

(1) 概要

人間生活学科のカリキュラムの中で、学生の社会的基礎力育成のため、芦屋町をフィールドに課題発見プログラムを実施した。本プログラムは、アクティブラーニングを中心に構成されており、ワークショップ、特にジグソー学習法によるグループ活動等を実施した。さらに、学修成果を芦屋町に報告した。

(2) 実施内容

①課題の調査

人間生活学科の2年生が芦屋町について、インターネットやSNSで情報を収集したうえで、実際に芦屋町を訪問し、役場の若手職員(地域の住民)とワールドカフェ方式で調査した情報を確認した。

これらの調査結果からカテゴリーを「広報」「定住」「イベント」の3分類に整理のうえ、テーマを「芦屋町の未来を考える」に設定し、芦屋町のさらなる活性化のためにプログラムを展開した。

カテゴリー	テーマ	内容
広報	①YouTube ②instagram ③ホームページ	①-1 YouTubeを利用している世代 ①-2 芦屋町と福岡市が行っている動画配信の比較 ②-1 instagramを利用している世代 ②-2 芦屋町と北九州市のinstagramの比較 ③-1 芦屋町と下関市のホームページの比較
定住	④芦屋町と近隣都市との比較 ⑤政令指定都市との比較	④-1 子育てに関する補助金 ④-2 住宅に関する補助金 ④-3 交通 ⑤-1 芦屋町・博多・小倉の比較
イベント	⑥芦屋町のイベント開催状況 ⑦芦屋町各月のイベント来場者数 ⑧芦屋町と近隣地区の花火大会の比較	⑥-1 芦屋町の季節ごとの行事と主な観光客数 ⑥-2 芦屋町のイベント開催画像 ⑦-1 芦屋町各月のイベント来場客数の統計 ⑧-1 芦屋町と近隣の花火大会開催状況 ⑧-2 芦屋町と直方市の花火大会開催場所と周辺施設 ⑧-3 芦屋町と直方市の花火大会の臨時バス運行の比較



②オフキャンパス研修

人間生活学科の2年生が分類した芦屋町の情報について、同学科の1年生がジグソー学習法を用いて、意見の拡散と収束を繰り返し、芦屋町の課題解決策を立案のうえ発表した(平成30年12月23日、24日)。本研修は、1年生が資料分析・課題の発見・解決策の構想・表現というプロセスを経ることで、思考力と知識活用能力を養成するものである。



③成果発表

オフキャンパス研修において、人間生活学科の1年生が立案した芦屋町の課題解決策「メディアを活用した情報発信」「知名度・交通の向上」「集客増加」の3案を芦屋町の副町長をはじめとする役場職員の前で発表し、講評を受けた(平成31年1月22日)。



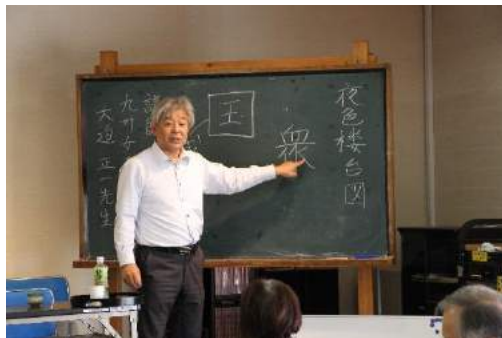
3. 地域交流サロンにおける公開講座

(1) 概要

地域交流サロンは、芦屋町の高齢者が身近な場所に集い、体操や趣味、食事、おしゃべり等を通じて、生きがい作りや介護予防のため運営している。そのサロンの高齢者を対象に学び直しの機会を提供するため、昨年度に引き続き、本学教員による公開講座(硬筆教室)を実施した。

(2) 実施内容

タイトル	地域交流サロン硬筆教室	
担当教員	九州女子大学 共通教育機構 准教授 大迫正一	
実施日時	平成31年1月22日(火) 13:30~15:30	
実施場所	三軒屋公民館	
受講者数	高齢者18人	
目的	日本文学に親しみながら、手書き文字を楽しむことで、通常の「硬筆講座」だけでは学べない、「筆読」という新しい営みを体験してもらう。	
概要	「与謝蕪村・小林一茶」について知り、書いてみる。また、漢字についての豆知識も紹介する。	
準備	①テキスト「えんぴつで蕪村・一茶」、②硬筆用鉛筆(4B)、③消しゴム	
講座の展開		
	主な講座内容	留意点
	①漢字の「人」や「大」に関する、字源と同じ系統の文字について概説する。 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> • 常用漢字の中でも、日常頻繁に使う漢字を使って概説する。 「人」…「比」「北」「旅」「従」等 「大」…「立」「並」等 発展して、関連の漢字についても紹介する。「地」等
	②与謝蕪村について概説する。 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> • 与謝蕪村の生涯とその業績について簡単に説明する。 • 蕪村筆「奥の細道」の複製を鑑賞する。
	③俳句を実際に音読し、解釈を知り、書いてみる。 (60分)	<ul style="list-style-type: none"> • 句の筆読は、10分程度で行う。(音読、解釈で5分、揮毫5分) • 各々三句を目安に筆読する。



講話①(漢字の字源)



講話②(与謝蕪村の概説)



説明(鉛筆の持ち方)



実習(なぞり書き)

受講者の声

研修の満足度：大満足33%・満足67%・普通0%・やや期待外れ0%・期待外れ0%

- 日々の生活の中で、文字を書く機会が減っていることを痛感しました。“学ぶ”という意欲が湧いてきました。
- 文字がとても大切であることを改めて感じました。毎日10分、文字を書く時間を作りたいです。
- 脳の活性化につながると思うので、字を鉛筆で書くことを少し増やしてみようと思いました。
- 文字の成り立ちが分かり、他の「字」についても、自ら学んでいきたいと思います。
- 最近、文字を書く機会が無く、今回の講座を受けて文字を書く気持ちになりました。
- 漢字の成り立ちも一つひとつ意味があり、おもしろかったです。
- 先生の話がおもしろく、分かりやすく楽しかったです。

担当教員の感想

参加者全員がとても熱心でした。漢字の字源や経緯といった日常必要のない話でも大変熱心に聴かれ、積極的に質問も出るほどで、安心しました。また俳句についても、大きな声で音読し、熱心に内容も聴いていました。また、揮毫の際は丁寧に鉛筆で書いておられ、講座の担当者として、本の執筆者として充実感がありました。蕪村の絵も興味深く鑑賞され、関連資料として持参しましたが、こちらの狙い通り、鑑賞されていました。このような状況はおそらく若いときに身につけた教養のなせる業であり、教養教育の必要性を改めて考える機会ともなりました。

4. キャラバン隊による模擬保育

(1) 概要

キャラバン隊は、九州女子短期大学子ども健康学科の実践型教育として、幼稚園・保育所・施設・学校等において、模擬保育・模擬授業を展開する活動である。この活動を通じて、学生の「創造性」・「意欲」・「研究心」・「人間関係力」・「問題解決能力」等、総合的な「人間力」の育成を目的としている。キャラバン隊には、原則、子ども健康学科の1年生全員が所属し、専門性と人間性を身につけるために必要なことは何かを考察している。また、希望者かつ優れた学生については、「スーパーキャラバン隊」として他の学生の模範となり、中心的に活動に取り組んでいる。昨年度に引き続き、芦屋町の保育所・幼稚園(計3ヶ所)においてキャラバン隊の活動を実施した。



(2) 実施内容

場所	日程	内容	時間
愛生幼稚園	平成30年11月19日(月)	①歌(山の音楽家) (あわてんぼうのサンタクロース) ②自己紹介(あなたのおなまえは) ③ペーパーサート(ドレミの歌) ④風邪予防指導 ⑤体操(キャラバン体操) ⑥ブラックシアター(にじいろのさかな) ⑦プレゼント渡し ⑧終わりのことば	60分
若葉保育所	平成30年11月26日(月)		
緑ヶ丘保育所	平成30年12月17日(月)		

学生のコメント	
①学んだこと	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの雰囲気や反応に合わせて、その場に応じた言葉かけや受け答えが大切だと学んだ。 自分たちが笑顔で楽しむことで、子どもたちが楽しんでくれたこと。 模擬保育を行う中で、子どもたちが真似してくれたり、反応してくれた場合は、必ず褒めることで、意欲的に参加してくれることが分かった。 常に笑顔を忘れずに子どもたちの前に立ち、明るくいることで、子どもたちも自然と笑顔になり、保育をスムーズに行えることを学んだ。 子どもたちにとって分かりやすい言葉を選ぶことが大切だと感じた。
②気づいたこと	<ul style="list-style-type: none"> 想定外のことが起きた際に、臨機応変に対応する力が必要だと感じた。 練習する際もできるだけ、本番に近い環境ですべきだと感じた。 日々の練習やリハーサルで行った声かけをそのままするのはではなく、そのときの雰囲気や場面に合わせた声かけや反応をすることができた。 次に何を行うかを考え、できるだけスムーズに進められるよう心がけた。 子どもの関心を自分へ向けることが大切だと改めて感じた。 子どもたちがたくさん反応してくれたため、自分が発言する内容を工夫しながら、模擬保育を進めることができた。
③今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちでオリジナルの体操を作り、実際に実演したら、子どもたちが楽しんでくれたため、今後もオリジナルの体操を考案したい。 臨機応変に対応できるよう、引き出しを多く持つておくようにしたい。 子どもたちの反応でどのような言葉が分かりやすいか気づくことができた。 失敗をなくすため、事前に練習を重ね、子どもたちの集中力が途切れないように保育を行っていききたい。 子どもたちへ対する言葉選びについて学べたため、今後も子どもと接する際は、発達段階に応じた言葉選びをしたい。

(3) 各園における模擬保育の様子

歌、ペープサート

若葉保育所



緑ヶ丘保育所



じゃんけん、風邪予防指導

若葉保育所



緑ヶ丘保育所

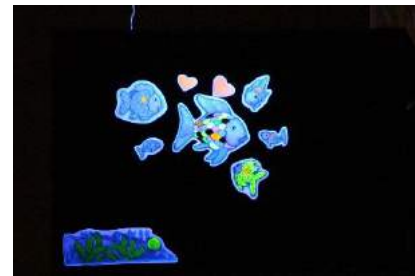


体操、ブラックシアター

愛生幼稚園



若葉保育所



プレゼント渡し

愛生幼稚園



緑ヶ丘保育所



5. 芦屋町祖父母学級における公開講座

(1) 概要

芦屋町祖父母学級は、芦屋小学校・芦屋東小学校・山鹿小学校の各校区で活動する大人向けの公民館講座の一つであり、豊富な知識と経験を持つ者同士が、楽しく学び、より深い社会性を身につけることを目的としている。その祖父母学級の高齢者を対象に学び直しの機会を提供するため、3ヶ所の公民館において、本学教員による公開講座を実施した。

(2) 実施内容

場所	日程	時間	受講者数
山鹿公民館	平成31年1月30日(水)	10:00~12:00	12人
芦屋町中央公民館	平成31年2月22日(金)	10:00~12:00	10人
芦屋東公民館	平成31年2月28日(木)	10:00~12:00	19人

タイトル	漢字のはなし ～「目」を考えよう！～
担当教員	九州女子大学 人間科学部人間発達学科(人間基礎学専攻) 准教授 古木誠彦
目的	漢字の成り立ちから漢字の面白さを知る。
概要	漢字の成り立ちを主に考察するが、併せて、我々の日常的慣習や中国哲学・思想についても考える講座内容である。
準備	①プロジェクター、②パソコン、③スクリーン、④ホワイトボード

講座の展開

主な講座内容	留意点
①「目」に関連する漢字19文字について解説を行った。	<ul style="list-style-type: none"> 大変難しい内容であるため、より平易な文言を用いて解説を行う。
②19文字それぞれの特徴を明確に示し、漢字構造のポイントについて言及した。	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の成り立ちを知ることが目的ではあるが、漢字に興味を持ってもらうことが、最大の目的であることを受講者に認識させながら、講義を行う。
③漢字の成り立ちと、それに関する哲学的観念・思想的観念について、簡潔に説明した。	<ul style="list-style-type: none"> 漢字ができた初義と、現在の我々が使用している意味の違いにも言及し、漢字が時代とともに生きている、という感覚を持ってもらえるよう話を進める。



講師紹介(芦屋東公民館)



講座の概説(芦屋町中央公民館)



講話：「目」の字形(山鹿公民館)



講話：「目」の字形(芦屋東公民館)

受講者の声

研修の満足度：大満足50%・満足44%・普通6%・やや期待外れ0%・期待外れ0%

- ・難しいことを考えるから面白い。難しいことを目前にしたときに逃げずに一歩前に進めて考えること。本当に興味をもてるように話してくださいました。
- ・象形文字から漢字が作られた過程を学び、先人の努力や考え方を学ぶことができ、大変有意義な時間でした。
- ・日々何の気なしに漢字を使っているが、その歴史、成り立ちに大変興味を感じました。
- ・毎日の生活の中で、字の成り立ちが活かされていることを知ることができました。
- ・講師の先生の話が楽しく、あっという間の時間を過ごさせていただきました。
- ・今まで漢字にあまり興味がありませんでしたが、非常に役立ちました。

担当教員の感想

難しい講座内容をどのように平易な言葉で説明するか、大変迷った部分もありました(平易に捉えすぎると本来の字義が薄れる場合があるため)。受講者の皆さんは、大変熱心で質問等もあり、充実した講座内容でした。話している私も楽しくなり、ついつい時間が足りずに、説明を省略した箇所もあったことは反省点でもあります。受講者の皆さんが、講座終了後も、色々なことについて私に話しかけていただいたことも嬉しかったです。「字形はこれです」と単に説明し、加えて、レベルを下げたような説明ではなく、字形の根拠について、レベルを下げずに平易で理解しやすい言葉での説明を心掛けたいです。

II. 北九州市との連携事業

平成25年9月1日に北九州市と本学で「北九州市放課後児童クラブの振興に関する連携」について協定を締結した。平成27年度連携事業開始にあたっては、放課後児童クラブの要望を把握するため、児童クラブの指導員を対象にアンケート調査を行った。このアンケート調査の結果から、4領域(①生活、②遊び、③活動・行事、④衛生等)について公開講座の要望があった。平成27年度から平成29年度は、これらの要望に基づいて以下のとおり公開講座を実施した。

平成30年度については、応急処置に関する大規模型公開講座を1講座実施した。

1. 大規模型公開講座の実績

講座名	受講者数	担当教員	実施年度
明日からの支援に活かそう健康観察と応急処置	市内指導員92人	人間発達学科 春高 裕美	H30年度
明日からの支援に活かそう健康観察と応急処置	市内指導員94人	人間発達学科 春高 裕美	H29年度
子どもの発達と児童期の関わり方	市内指導員496人	人間発達学科 蒲原 路明	H29年度

2. 通常型公開講座の実績

【領域①：生活】

内容	要望	講座名・実施クラブ	担当教員	実施年度
生活指導	<ul style="list-style-type: none"> 高学年の発達に応じた独自の生活指導の研修があれば良い。 児童と指導員との対応の仕方。例えば、問題児との関わり方等、具体策について勉強してみたいと思う。 	子どもの発達特性を活かした生活集団づくり	人間発達学科 神代 明 藤川 一俊	H27年度
		萩原学童保育クラブ 受講者数:指導員12人		
発達障害	<ul style="list-style-type: none"> 発達障害やボーダーラインの子どもたちに関する研修があれば参加したい。 発達障害を持った児童に対する指導方法、落ちつきのない児童(グレーゾーン)の対応、声かけ等 	発達障害の子どもの特性と基本的理解	人間発達学科 石黒 栄亀	H28年度
		けやき児童クラブ 受講者数:指導員13人		
保護者クレーム対応	<ul style="list-style-type: none"> 児童同士のトラブルにおける保護者からのクレーム対応 			

【領域②：遊び】

内容	要望	講座名・実施クラブ	担当教員	実施年度
遊び(レク)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの興味をひく遊びや低学年用、高学年用等、年齢に合った遊び 遊びのスペースが狭いため、限られた環境に適した遊びの指導、小学校高学年児童向けのもの 	高学年における集団遊び	人間発達学科 藤川 一俊	H27年度
		医生丘児童クラブ 受講者数:指導員7人/児童7人		

【領域③：活動・行事】

内容	要望	講座名・実施クラブ	担当教員	実施年度
ダンス・手遊び	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み等にいくつかのクラスに分けて、ダンス、制作、その他希望する活動が一緒にできればとてもありがたい。 ダンス、演奏等の活動はできていないと感じているため、楽しんで体を動かす活動を教えてあげて欲しい。 	体を動かすことを楽しもう！ ～リズムにのって楽しく～ 折尾児童館内放課後児童クラブ 受講者数:指導員11人/児童22人	人間発達学科 青山 優子	H27年度
		リズム表現を通した子どもの心と体への働きかけ 曾根東校区放課後児童クラブ 受講者数:指導員15人	子ども健康学科 津山 美紀	H28年度
工作・美術	<ul style="list-style-type: none"> 全学年が満足する夏休みの工作で毎年悩んでいる。 科学的な実験や、動くおもちゃの制作等、子どもの興味、好奇心をそそるような体験行事があると良い。 	制作体験(工作・美術)～実用的なものから遊べる制作物まで～ 西小倉なかよし学童クラブ 受講者数:指導員14人	子ども健康学科 富永 剛	H28年度
活動	<ul style="list-style-type: none"> 職員の啓もう もっと1～6年生が気軽にできたり、夏に取り組める例を知りたい。 	いろんな学年の子どもたちを楽しく遊ばせよう 星の子・木屋瀬放課後児童クラブ 受講者数:指導員23人	人間発達学科 萬徳 紀之	H29年度

【領域④：衛生等】

内容	要望	講座名・実施クラブ	担当教員	実施年度
応急処置	<ul style="list-style-type: none"> ハチにさされた、大量の鼻血、けいれん等の応急処置の仕方。 インフルエンザ等で隔離が困難であるため、このようなケースの対応について。 	やってみよう！ 緊急対応と応急処置 鴨生田放課後児童クラブ 受講者数:指導員9人	人間発達学科 春高 裕美	H27年度
		応急処置～実際にやってみよう、緊急対応と応急処置～ 松ヶ江北校区放課後児童クラブ 受講者数:指導員13人	人間発達学科 春高 裕美	H28年度
おやつ	<ul style="list-style-type: none"> 児童に多い疾病、食物アレルギーに関する対処方法等 簡単に時間と手間をかけずにできる手作りおやつのレシピ紹介 			
アレルギー	<ul style="list-style-type: none"> アナフィラキシーショックの対応(エピペン使用)の研修 アレルギーの「完全除去」「製造ラインから除く」等、基礎的な知識とおやつの工夫を知りたい。 	応急処置～実際にやってみよう、緊急対応と応急処置～ 松ヶ江北校区放課後児童クラブ 受講者数:指導員13人	人間発達学科 春高 裕美	H28年度
不審者対応	<ul style="list-style-type: none"> 不審者が侵入した際の子どもの誘導、カラーボールを準備して投げる等 女性でも子どもたちを守る護身術等。他に救急対応、不審者対応等 	不審者対応と護身術 永犬丸放課後児童クラブ 受講者数:指導員8人	人間発達学科 神代 明 子ども健康学科 松崎 守利	H29年度

3. 公開講座の実施内容

(1) 大規模型講座

タイトル	明日からの支援に活かそう健康観察と応急処置	
担当教員	九州女子大学 人間科学部人間発達学科(人間発達専攻) 講師 春高裕美	
実施日時	平成30年7月2日(月) 9:30~11:30	
実施場所	北九州市役所本庁舎 3F 大会議室	
受講者数	指導員92人	
目的	基本的な健康観察の方法や、緊急時対応について学ぶ。	
概要	放課後児童クラブの指導員に求められる緊急時の役割と対処方法を分かりやすく講義する。加えて、日常的に起こる怪我や病気の応急処置について、事例を通して演習する。	
準備	①配付資料、②ビニールエプロン、③ビニール手袋、④マスク 等	
講座の展開		
	主な講座内容	留意点
	①誰でもできる基本的な健康観察	①誰でもできる基本的な健康観察 様子をみて良いのか、明日受診なのか、それとも即受診なのか、見極めるポイントを学ぶ。
	②緊急時のいろは (20分)	②緊急時のいろは 緊急事態が発生した際の指導員の動き、保護者への連絡のタイミングや留意点について学ぶ。
	③日常保育で起こりやすい事例検討 事例A:プロレスごっこで頭部を打つ 事例B:急な高熱。隔離する? 事例C:けいれん発生。さあどうする? (60分)	③日常保育で起こりやすい事例検討 A:頭部外傷の対応の実際と、見落としとしてはならない観察ポイントを学ぶ。 B:インフルエンザを含む、急性感染症が発生した際の指導員の動きや、ひとつの空間を有効利用した隔離方法を学ぶ。 C:けいれん等の緊急対応について、観察ポイントと冷静に対応する心構えを学ぶ。
	④事例に応じた演習 事例D(演習): エピペン所持する子が誤食した! 事例E(演習): ノロウイルスが大流行 嘔吐物の正しい処理は? (20分)	④事例に応じた演習 D:エピペントレーナーを用いた実践を行う。 E:嘔吐物の処理について実践を行う。 (全員)
	⑤最新情報 ～応急処置ではないけれど～ 多動性・衝動性の高い子どもの援助 (10分)	⑤最新情報 有効な働きかけについて、最新情報の提供を行う。



講話(緊急時のいろは)



日常保育で起こりやすい事例検討



演習①(エピペンの使用方法)



演習②(嘔吐物の処理方法)

受講者の声

研修の満足度：大満足68%・満足27%・普通5%・やや期待外れ0%・期待外れ0%

- ・分かりやすく、また、事例を交えた処置の仕方を教えてくれてよかったです。
- ・具体例を自分のクラブと照らし合わせて考えることができました。
- ・身近な内容をすぐに活用できる方法で説明してくれ、内容も充実していました。
- ・けいれんが起こったとき等の対処法も分かりやすく、何より、まず“あなたが落ち着く”にすごく納得しました。
- ・児童の症状だけに目が行きがちだが、他児童・保護者に対する配慮の重要性も感じました。
- ・けいれんについては、深く勉強したことがなかったため、詳しく知ることができました。

担当教員の感想

今年度も北九州市内各区より、放課後児童クラブの指導員の方にお集まりいただきました。早朝にもかかわらず、多くの指導員の方が、開場よりもずっと早い時間からお越しいただき、その熱意と学習意欲に大変感銘を受けました。今回も実技や実演を交えて研修を行いました。先生方の実技に対する積極的なご参加と、真剣な眼差し、そして休憩中や閉会後の質問と、先生方のクラブに対する責任感や熱い思いを感じました。

今後は、放課後児童クラブと大学がより密に連携が取れるように、新たな地域連携の形が構築できると良いのではないかと思います。私も大変勉強になりました。

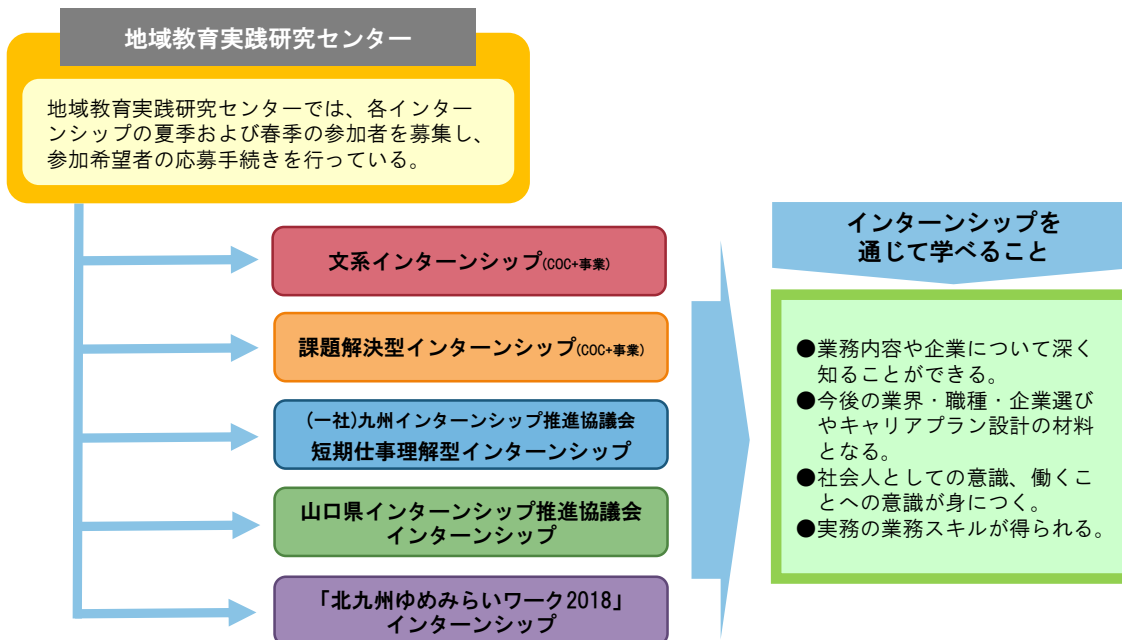
Ⅲ. インターンシップ推進事業

インターンシップについては、日本再興戦略においてその有効性が再認識され、「質」および「量」の向上が求められている。本学においても、国の政策に基づきインターンシップの需要が高まることを考慮し、地元企業を中心としたインターンシップ推進事業に取り組むことで、学生のインターンシップ参加促進を図っている。

平成30年度は、北九州市と地元大学との連携による文部科学省補助事業「地(知)の拠点による地方創生事業(COC+)」の文系インターンシップ、および課題解決型インターンシップをはじめ、様々なインターンシップを推進し、多数の学生を派遣した。

1. インターンシップの種類

文系インターンシップ(COC+事業)
北九州市内の学生に対して、職業意識の醸成や勉強意欲の向上、および市内企業への就職促進を図るため、市内の大学、短期大学、企業、北九州商工会議所が連携・協力し、文系学生を対象に就労体験の場を提供する事業である。
課題解決型インターンシップ(COC+事業)
北九州商工会議所が実施主体となり、北九州市内の学生に社会的基礎力を修得させるため、地域産業や企業等の課題を題材として実施する課題解決型の事業である。
(一社)九州インターンシップ推進協議会 短期仕事理解型インターンシップ
九州全体を見据えたインターンシップの推進と次代を担う若手の人材を育成するため、九州経済産業局や地元経済界、主要大学による産学官が協力して実施する事業である。
山口県インターンシップ推進協議会インターンシップ
山口県の経済・社会の活性化に貢献するため、県内の高等教育機関等、事業所、経済団体、行政機関が相互に連携・協力し、企業等へのインターンシップを通じて、高い職業意識の育成を推進する事業である。
「北九州ゆめみらいワーク2018」インターンシップ
地元企業と北九州市の魅力理解と職業観を醸成するため、「北九州ゆめみらいワーク2018」※に出席する地元企業を訪問し、企業や北九州市の魅力について、取材したことをイベント来場者へ紹介する事業である。 ※中学・高校生等を対象に仕事や進学について考え、地元の魅力を知るキャリア教育のイベント



2. インターンシップ参加スケジュール

インターンシップに参加する学生に対して、本学独自の事前研修を行い、社会で必要なスキルを事前に身につけたうえで企業へ派遣するフォロー体制を整えている。また、インターンシップ終了後は、職員による事後面談を行い、インターンシップ時の評価をフィードバックし、その後の就職活動に繋げている。インターンシップ参加のスケジュールは、以下のとおりである。

(1) 夏季インターンシップ

5月

参加学生の募集開始

チラシ掲示による案内、キャリアデザイン科目等での説明
必要書類の提出

6月

企業と学生のマッチングによる受け入れ先決定

7月

学内事前研修

インターンシップの意義やマナーについて学内で研修

学外事前研修

※(一社)九州インターンシップ推進協議会に限る
主催側によるインターンシップの意義、マナーについて他大学参加者と共に研修

8~9月

インターンシップ

9月

学外事後研修

※(一社)九州インターンシップ推進協議会に限る
主催者側によるインターンシップの振り返り

10月

事後面談

学内担当者とインターンシップの評価のフィードバックと振り返り面談



(2) 春季インターンシップ

11月

参加学生の募集開始

チラシ掲示による案内、キャリアデザイン科目等での説明
必要書類の提出

12月

企業と学生のマッチングによる受け入れ先決定

1月

学内事前研修

インターンシップの意義やマナーについて学内で研修

学外事前研修

※(一社)九州インターンシップ推進協議会に限る
主催側によるインターンシップの意義、マナーについて他大学参加者と共に研修

2~3月

インターンシップ

3月

学外事後研修

※(一社)九州インターンシップ推進協議会に限る
主催者側によるインターンシップの振り返り

4月

事後面談

学内担当者とインターンシップの評価のフィードバックと振り返り面談



3. 各インターンシップの実績

(1) 文系インターンシップ(COC+事業)

①事業概要

参加大学・人数	九州女子大学:10人 九州共立大学:13人 北九州市立大学:25人 九州国際大学:19人 西南女学院大学:31人 西日本工業大学:31人 福岡工業大学:4人 福岡大学:3人 日本経済大学:18人 下関市立大学:5人 熊本大学:1人 計:延べ160人
企業数	参加企業数:夏季49社/春季64社 受入企業数:夏季34社/春季35社
実施期間	夏季:平成30年8月～9月 春季:平成31年2月～3月

②本学の実施状況

	受け入れ先	日程	日数	実習内容	人数
夏 季	(株)観山 観山荘別館	8/7～11 8/15～19 9/3～7	各5日	事務、接客	3
	(株)城野自動車学校	8/9～11	3日	窓口受付業務等	1
	ネットトヨタ北九州(株)	8/23～25	3日	事業説明、実務体験等	1
	(株)レディスハトヤ	9/3～7	5日	接客体験	1
	下関体育センター(株) リフレッシュスポーツクラブ	9/10～13	4日	清掃、接客体験	1
	日本生命保険(相) 北九州支社	9/10	1日	グループワーク等	1
計(延べ人数)					8
春 季	九州三菱自動車販売(株) 北九州支店	2/16	1日	マナー講座、POP作成等	1
	(株)コプロス	2/23	1日	事業説明、実務体験等	1
計(延べ人数)					2
合計(延べ人数)					10

学生のコメント	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップで接した方々が、自分の軸を持って働いていたことがとても素敵に感じ、私も働く際に軸をしっかりと持つことが、大切であると気づきました。今後の就職活動は、しっかり自己分析して取り組みたいです。
受け入れ先のコメント	<ul style="list-style-type: none"> 疑問に思った点を積極的に質問されること、また、アドバイス等に関しても素直に聞き入れ、対応されていたことがとても好印象でした。

(2) 課題解決型インターンシップ(COC+事業)

①事業概要

参加大学・人数	九州女子大学:3人 北九州市立大学:1人 西南女学院大学:2人 計6人
実施期間	平成30年8月21日～8月28日

②実施内容

プログラム	1日目:オリエンテーション・訪問企業へのヒアリングの準備 2日目:北九州市役所訪問・会員企業訪問 3日目:会員企業訪問 4日目:北九州ゆめみらいワーク見学・出展企業へのヒアリング等 5日目:報告書の作成・報告会準備 6日目:報告会準備・報告会
学生のコメント	<ul style="list-style-type: none"> グループワークにおいて、資料を作成する際に、これまでの学生生活で学んだ情報処理能力が役立ちました。今後も、さらに情報処理に関しての技術を身につけていきたいです。
受け入れ先のコメント	<ul style="list-style-type: none"> 他大学の学生との協調もスムーズで、積極的に発言し、参加者をまとめてくれました。実習期間中は、グループのリーダー役を率先して引き受けてくれ、重要な役割を果たしてくれました。

(3) (一社)九州インターンシップ推進協議会 短期仕事理解型インターンシップ

①本学の実施状況

	受け入れ先	日程	日数	実習内容	人数
夏季	第一生命保険(株) 北九州	8/20～24	5日	営業体験 ※2日目以降は体調不良により欠席	1
	(株)チカラ	8/20～24	5日	執筆業、書籍制作等	1
	日本生命保険(相) 北九州支社	9/10～14	5日	グループワーク	1
計					3
春季	福岡県青少年科学館	3/14～24	10日	接客業務、活動支援等	1
	計				
合計					4

学生のコメント	<ul style="list-style-type: none"> 仕事を好き、嫌いで選ぶより、興味があるか、楽しいと思えることが重要だと教わり、今後の仕事を選ぶ観点として大切にしたいと思います。また、意識的にコミュニケーションを取るということも併せて学ぶことができました。
受け入れ先のコメント	<ul style="list-style-type: none"> 作成した文章を指摘すると自分なりに考えて書き直す等、向上心や考え抜く力を持っていると感じました。また、取材前の準備もできており、先読みして計画的に行動していました。

(4) 山口県インターンシップ推進協議会インターンシップ

①本学の実施状況

※平成30年度の本学学生の参加者なし

(5) 「北九州ゆめみらいワーク2018」インターンシップ

①事業概要

参加大学・人数	九州女子大学:1人 北九州市立大学:1人 梅光学院大学:1人 九州国際大学:7人	計10人
実施期間	平成30年7月上旬～イベント当日(平成30年8月24日、25日)	

②実施内容

プログラム	7月5日 オリエンテーション(概要説明・今後の予定・宿題提示等) 7月11日～8月16日 訪問前のチーム会議 提案内容決定 企業訪問(1～2回) 8月24日～8月25日 「北九州ゆめみらいワーク2018」イベント当日
学生のコメント	<ul style="list-style-type: none"> 中高生が楽しみながら学べるようにクイズ形式にした呼び込み案を企画し、この企画が通ったときは、とても嬉しく感じました。私の夢は、教員になることですが、このインターンシップで様々な企業に関わることで、就職対しての視野も広がりました。

IV. 学生ボランティア事業

本学は、幼児教育者や学校教員等を目指す学生に現場経験を積ませるため、グリーンティーチャー等として、幼稚園・保育所、小学校、特別支援学校等に数多くの学生を派遣している。また、ボランティアとして、病院施設、図書館等にも学生を派遣している。

平成30年度は、以下のとおり学生を派遣した。

九州女子大学

1. グリーンティーチャー

取得免許毎の学生の実践力向上を図る事業について、「グリーンティーチャー」と命名し、グリーンとは、「緑の、未熟な、未経験の、元気のいい、若々しい、新鮮な」という意味を含んでいる。教育現場等において、園児や児童の指導補助・学習支援等を通し、学生の実践力を身につける本学独自の取り組み。

(1) 幼稚園・保育所

派遣先	人数
九州女子大学附属自由ヶ丘幼稚園	17
九州女子大学附属折尾幼稚園	1
さんろくこどもえん	4
合計	22



(2) 小学校

		派遣先	人数
北九州市	門司区	西門司小学校:2人 大里柳小学校:3人	5
	小倉南区	企救丘小学校:3人	3
	小倉北区	霧丘小学校:1人 井堀小学校:1人 泉台小学校:1人	3
	戸畑区	天籟寺小学校:1人 牧山小学校:1人 あやめが丘小学校:1人	3
	若松区	青葉小学校:3人 二島小学校:6人 藤木小学校:1人 鴨生田小学校:2人	12
	八幡東区	花尾小学校:1人 八幡小学校:1人	2
	八幡西区	赤坂小学校:5人 穴生小学校:2人 折尾東小学校:12人 則松小学校:12人	82
		黒崎中央小学校:5人 黒畑小学校:1人 折尾西小学校:14人 浅川小学校:5人	
		光貞小学校:5人 熊西小学校:5人 医生丘小学校:3人 赤坂小学校:2人	
		本城小学校:4人 竹末小学校:1人 萩原小学校:1人 木屋瀬小学校:1人	
鳴水小学校:1人 八見小学校:2人 槻田小学校:1人			
		計	110
中間市	中間小学校:8人 中間東小学校:2人 中間北小学校:1人	11	
		計	11
その他	赤間西小学校:1人 東郷小学校:1人 河東小学校:1人 荻田小学校:1人	17	
	吉木小学校:3人 豊津小学校:1人 諫山小学校:1人 幸袋小学校:2人		
	庄内小学校:1人 延永小学校:1人 吉岡小学校:1人 三毛門小学校:1人		
	小竹南小学校:1人 上穂波小学校:1人		
		計	17
		合計	138

(3) 芦屋校区土曜学び合いルーム

派遣先	人数
芦屋町中央公民館	16
芦屋東公民館	17
山鹿公民館	19
合計	52

(4) 特別支援学校

派遣先	人数
北九州市立八幡西特別支援学校	3
北九州市立八幡特別支援学校	8
北九州市立小倉総合特別支援学校	2
北九州市立小池特別支援学校	10
北九州市立小倉南特別支援学校	3
合計	26

【学生のコメント】

- 絵本読みや、手遊び等を現場で実践できるととても良い機会でした。遊び以外にも園や担当の先生によっては子どもの排泄の援助や、怪我の手当て等をお願いされることもありました。そこで得た気づきや、反省点を改善する時間も十分にあり、無理なく本実習に向けて事前準備を行うことができました。
- グリーンティーチャーとして現場の小学校に行き、多くのことを学びました。授業づくりだけでなく、児童の実態把握の大切さ、学年による声かけの違い、授業外での指導等、先生の仕事を間近で見ることができました。また、印刷や採点等、様々な仕事があることにも気づきました。そして、学んだことを教育実習で活かすことができ、ボランティアの素晴らしさを実感しました。

2. 病院・施設ボランティア

病院(病児保育)・施設(療育施設)において、多様な保育環境に対応できる保育者を育成する取り組み。

派遣先	人数
産業医科大学病院(小児病棟)	1
中間市 親子ひろばリンク	1
病児保育室 りんご	2
合計	4

【学生のコメント】

- ・ボランティアを経験して、病院で行われている保育のことを初めて知りました。病氣やケガで学校に通えない子どもが、病院で楽しく過ごせるように日々楽しいことを考えられている姿を沢山みることができました。クリスマスの時季でしたので、クリスマスカードや、廊下の壁飾り、子どもたちと一緒にリースを作ったことが大切な思い出です。

3. 図書館ボランティア

図書館において、図書館司書資格に必要な知識と技術を実務経験を通して身につけ、現場で図書館司書の役割等を理解する取り組み。

(1) 公共図書館等

派遣先	人数
そねっと	2
ひびきの図書館	1
芦屋町立図書館	2
鞍手町中央公民館図書室	4
希望図書館なし	1
若宮市立図書館	2
中間市民図書館	1
飯塚市立図書館庄内図書館	1
飯塚市立図書館中央図書館	2
福岡市早良図書館、福岡市西図書館	1
福津市立図書館	1
北九州市立小倉南図書館	2
北九州市立若松図書館	2
北九州市立若松図書館島郷分館	4
北九州市立八幡西図書館	6
合計	32

(2) 学校図書館

派遣先	人数
自由ヶ丘高等学校図書室	14
合計	14

【学生のコメント】

- ・今回の体験を通して、私は自分の知識のなさを痛感したことから、本の種類等の知識を身につけたいと思いました。多くの本に自分自身で触れ、講義をしっかりと受け、将来司書として働いていけるようにしていきたいです。今回のボランティア活動で貴重な経験をする事ができたため、これから役立てたいです。



九州女子短期大学

4. 幼稚園・保育所・施設ボランティア

幼稚園・保育所・施設の行事等の多様な活動において、役割や仕事を実践・思考することで、職業人として必要な力を育成する取り組み。

派遣先	人数
九州女子大学附属自由ヶ丘幼稚園	32
九州女子大学附属折尾幼稚園	34
九州女子大学附属鞍手幼稚園	29
桜ヶ丘幼稚園	5
こじか幼稚園	2
久保保育園	10
高須保育園	6
福岡コロニー	3
障害児支援施設 あおぼの里	16
北九州市立若松ひまわり学園	7
フルーツバスケット(障がい児余暇活動)	6
合計	150



5. キャラバン隊

九州女子短期大学の実践型教育として、幼稚園・保育所・施設・学校等に出向き、模擬保育や模擬授業を展開する取り組み。

派遣先	人数
福岡県立八幡中央高等学校	19
福岡県立直方高等学校	12
福岡県立折尾高等学校	6
若葉保育所(芦屋町)	7
緑ヶ丘保育所(芦屋町)	8
愛生幼稚園(芦屋町)	7
久保保育園(古賀市)	10
川崎町立幼稚園(田川郡)	5
合計(延べ人数)	74

【学生のコメント】

- ・保育所の夏祭りに参加させていただき、先生方が連携して準備を進める様子や、子どもたちや保護者の方々とコミュニケーションをとる様子を見て、とても勉強になりました。これから色々な経験を積み、先生方のように視野を広く持ち、臨機応変に対応する力を身につけたいです。
- ・子どもたちの前で出し物をした際に、喜んでもらえてとても嬉しかったです。次に出し物をする際は、もっと余裕を持って子どもたちの様子を見ながら進められるように事前準備をしっかりと行い、想定外のことにも臨機応変に対応できるようにしたいです。

V. その他の地域連携諸事業

1. 北九州・下関まなびとぴあへの参画(COC+事業)

本件は、「北九州・下関まなびとぴあ」を中心に地方創生モデルを構築することを目的とした文部科学省の補助事業(COC+)の取り組みの一つである。産学官の多様な視点から、学生の北九州・下関の定着促進を図る施策について、具体的に検討することを目的に4分野のワーキンググループ(調査研究WG、教育プログラムWG、低学年向けプログラムWG、就活生向けプログラムWG)が平成28年度に設置された。本学は、「低学年向けプログラムWG」に参加し、地域人材力の養成のため、学生が地域への興味や関心を持てる低学年向けプログラムの開発について意見交換を重ねた。また、今年度から「SDGs人材育成WG」が新たに設置され、本学も当該WGに参加し、市内におけるSDGs推進に向けた意見交換を重ねた。

さらに、新たな取り組みとして、人脈構築の場、地元企業理解の促進のため、「企業と大学との情報交換会」が開催され、地元企業102社、大学等13校が参加し、総勢304名が出席した(平成30年8月27日)。本学からは、学長をはじめとする15名の教職員が参加した。



2. 北九州商工会議所との連携事業

北九州商工会議所の会報誌「北商NEWS」内の情報発信コーナー「キャンパス通信」において、本学学生による教育研究活動の紹介記事を3回にわたって掲載した。

本会報誌は、北九州市内の企業約8,500社、行政機関や関連団体400事業所に配布されるもので、平成29年度から連携協定を締結している大学が持ち回りにより記事を掲載している。本学は、栄養学科、短期大学の子ども健康学科、人間発達学科(人間発達学専攻)の3学科を取り上げ、それぞれの特徴や活動内容等について、学生目線で紹介した。

掲載号	紹介学科	掲載タイトル
5月号	栄養学科	水巻町と災害食レシピを共同研究 地域貢献して授業実践の機会に
9月号	子ども健康学科	教育現場でボランティア活動 人間力や実践力を磨いています
12月号	人間発達学科 人間発達学専攻	教員目指す「グリーンティーチャー」 小学校ボランティアで経験を積む



3. 北九州ゆめみらいワークへの出展

平成30年8月24日、25日の2日間、西日本総合展示場(小倉北区)において、北九州市主催による「北九州ゆめみらいワーク」が開催され、本学からは栄養学科の学生が出展した。このイベントは、北九州地域の小・中学生、高校生、大学生、および保護者・教員等を対象に、地元企業の仕事の魅力、専門学校等の専門職ならではの難しさ、また、大学・短期大学の面白さや学びの重要性について伝え、自分の将来や社会との関わり方について考える機会を提供している。2日間で企業・大学・短期大学・専門学校等、121団体が参加し、それぞれの趣向を凝らした魅力をアピールした。

本学のブースでは、栄養学科が「食と健康を科学する」をテーマに栄養診断、体力測定、味覚実験等を実施し、計367名の高校生等で賑わった。



VI. 研究活動

1. 学会報告：地域活性学会「第10回研究大会」

(1) 概要

本学の地域教育実践研究活動をさらに発展させるため、他大学等の地域連携事業に関する研究や事例の情報等を得ることを目的に、平成28年度から「地域活性学会」の団体会員に大学として加入している。

平成30年度は、本学会の第10回研究大会(10周年記念大会)が平成30年9月15日、16日の2日間で開催され、本学からは人間生活学科の教員が参加し、本学の取り組みについて発表した。

(2) 地域活性学会「第10回研究大会」の基本情報

テーマ	「地球時代の地域活性～世界の中の地域、地域の中の世界」
日程	平成30年9月15日(土)～16日(日)
会場	拓殖大学 文京キャンパス
参加者	2日間で257名

(3) 本学の発表内容

本学は、自治体・団体特別発表(第9会場)において、以下2テーマについて事例を発表した。

テーマ①	自治体との包括的地域連携協定による連携事業 ー芦屋町における「九女型人材育成プログラム」の実践ー
人間生活学科の1年次、および2年次の授業における芦屋町をフィールドとした実践教育について、課題解決型ワークショップ、およびファシリテーターの養成等を展開し、学生のジェネリックスキルの育成に取り組んだことを発表した。 本取り組みの結果として、地域活動を実践する際に活動に対する「ムラ」をなくすため、本取り組みが本学の地域活動にどのような影響を与えていくのか、地域と大学の双方向による客観的なデータを基に考察する必要があることを挙げた。 ※発表原稿はP32参照	

テーマ②	大学生の学外活動による学習成果 ー九州女子大学人間生活学科の授業内における地域活動の効果ー
学外活動による学習成果について、人間生活学科の2年次以降の授業における学生主体の地域活動の中から、教員養成に特化したフィールドでの活動方法とその評価について発表した。 本取り組みの結果として、これを成功事例に教員免許取得希望者以外の地域活動に関するデータも分析し、地域に貢献しながら社会人基礎力を向上させる必修科目としての授業展開を探っていく必要があることを挙げた。 ※発表原稿はP34参照	

(4) 感想・今後の展望

発表後の意見交換の場において、地域活動における単位化の是非について意見が集中した。殆どの大学で地域活動の単位化に取り組めていないことが現状であった。地域活動の単位化については、協力自治体(地域活動の場)の確保、教員数、地域活動にかかる時間不足、学生の社会人スキルに対する意欲の有無等、様々な問題が挙げられた。また、地域活性学会の運営関係者が、自治体・地域住民・民間・大学との連携の在り方を今後の課題として挙げている。

2. 研究事業：水巻町との災害食レシピ開発

(1) 概要

水巻町では、遠賀川(一級河川)の氾濫等による水害が考えられ、住民の防災意識の向上を一つの課題としている。このことから、平成29年度より、各家庭における災害時に備えた食料の備蓄を促すため、本学と共同でローリングストック法を取り入れた、備蓄食料や少ない調理器具を活用する簡単で温かくおいしい食事のレシピを開発している。

(2) 研究内容

町民を対象に備蓄に対する意識調査を行うとともに、災害時にアレルギーを持つ子どもたちが十分な栄養を摂取できるアレルギーに対応した災害食レシピを考案した。本レシピを紹介・周知することで、各家庭における備蓄食品の普及・啓蒙を図るものである。

(3) 開発したアレルギー対応災害食

卵アレルギー対応食



【オムライス】

オムライスは卵の代わりに米粉、かぼちゃ、豆乳を使用。チキンライスは、アルファ化米と焼き鳥缶を使用。



【カルボナーラ】

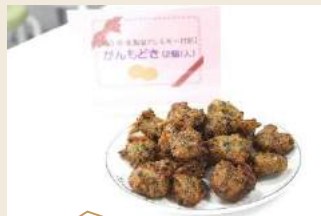
卵と生クリームの代わりに、豆腐、豆乳、豆乳クリームを使いクリームに仕上げる。



【巻き寿司】

卵の代わりに高野豆腐を使用し、くちなし色素で色付け。酢飯は殺菌効果もあるうえ、アルファ化米も美味しくなる。

大豆アレルギー対応食



【がんもどき】

豆腐、卵を使わず、やまいもと米粉で代用。米粉を使うことによってもちり感が出る。



【ずんだ餅】

枝豆の代わりにサツマイモとジャガイモを使用しほうれん草で色付け。

小麦アレルギー対応食



【お好み焼き】

小麦、卵の代わりに片栗粉とやまいもを使い、じゃがいものせん切りを加えてでんぷん質を補う。鯖缶、焼き鳥缶どちらとも相性が良い。

乳製品アレルギー対応食



【豆乳プリン】

卵、乳製品を使わず、豆乳、豆乳生クリームを使い、コーンスターチで固める。



【トマトシチュー】

乳製品を用いず保存可能なトマトピューレやケチャップを使用。保存食品の鶏肉や豆を入れ、たんぱく質を補う。

(4) 実践講習会の実施

今年度で2回目の開催となる実践講習会(平成30年11月24日開催)は、水巻町教育長をはじめ、水巻南中学校の生徒19名が参加した。この実践講習会では、栄養学科の学生と中学生が開発したレシピに基づき調理し、完成した料理を試食した。また、水巻町のマスコットキャラクター「みずまる」も参加し、大変賑わいのある講習会となった。参加した中学生からは、大学生の教え方も丁寧で分かりやすく、災害食も美味しいと好評であった。



三宅学長特別補佐・家政学部長の挨拶



学生と中学生による調理実習



完成した料理



講習会を終えて

(5) 防災イベントへの参加

平成29年度と平成30年度のレシピ開発の実績が評価され、国土交通省九州地方整備局主催の九州防災・減災シンポジウムin遠賀川(平成31年1月24日開催)、および北九州市主催の北九州市防災フォーラム(平成31年3月17日開催)への参加依頼を受け、レシピの展示等を行った。特に北九州市防災フォーラムでは、学生を中心に動画やパネル等を活用して多くの方へレシピを紹介した。



レシピの紹介



北橋健治市長と一緒に

3. 研究事業：水巻町の地域資源を活用したレシピ開発

水巻町の特産品である「でかにんにく」のブランディングに寄与するため、学校給食の献立に活用できる「でかにんにく」の調理レシピを16品目開発した。



I. 平成30年度 学外実習・介護等体験の実績

教育実習	保育実習	臨地実習	介護等体験	臨床実習
<p>・教員免許状の取得に際して、各学校における観察・参加・実習という教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに、課題を自覚する機会とすべく実習を行うもの。</p>	<p>・保育士資格取得に際して、保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解し、観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深めるために保育所、児童福祉施設等において実習を行うもの。</p>	<p>・管理栄養士免許取得に際して、実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識および技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識および技能を修得させることを目的として実習を行うもの。</p>	<p>・小学校又は中学校の教員免許状を取得しようとする者を対象に、教員が個人の尊厳および社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性に鑑み、教員の資質向上および学校教育の一層の充実を図る観点から、特別支援学校2日間、社会福祉施設5日間の体験を行うもの。</p>	<p>・大学で学んだ知識・技術をもとに、医療・介護・福祉の現場における活動の見学や援助を通して、養護教諭としての必要なケアの視点や能力を養う。また、実習体験を通して個人を尊重した対象者とのかかわりの基本と健康や健康障害、発達段階や発達課題に対する支援能力を養うために実習を行うもの。</p>

【九州女子大学】

(人数)

実習名	学科・専攻名	学校種別等	1年	2年	3年	4年
教育実習	人間生活学科	中学校 高等学校	/			22
	栄養学科	小学校				7
	人間発達学科 人間発達学専攻	幼稚園	/		58	72
		小学校			43	4
	人間発達学科 人間基礎学専攻	特別支援学校	/			34
人間発達学科 人間基礎学専攻	中学校 高等学校	20				
保育実習	人間発達学科 人間発達学専攻	保育所	/	51	62	/
		児童養護施設等	/			
臨地実習	栄養学科	福祉施設・保健所	/		80	/
		小学校			79	
		病院			80	
介護等体験	人間生活学科	特別支援学校 社会福祉施設	/		7	1
	人間発達学科 人間発達学専攻				51	1
	人間発達学科 人間基礎学専攻				24	/

【九州女子短期大学】

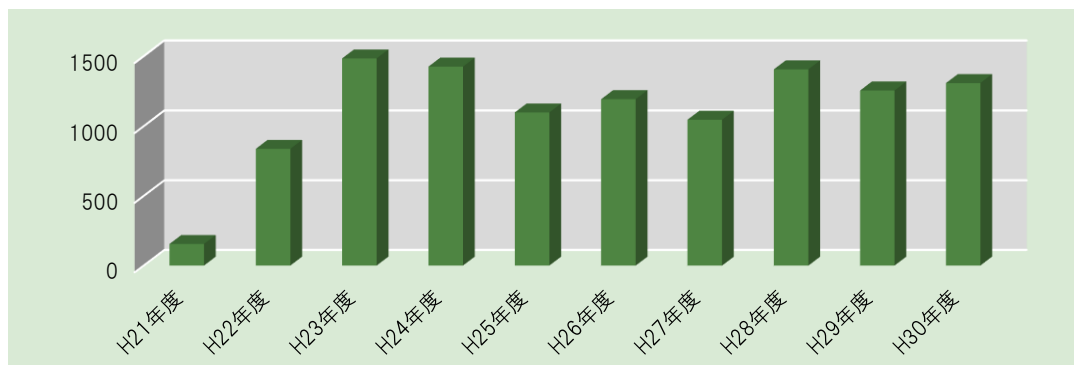
(人数)

実習名	学科・課程名	学校種別等	1年	2年
教育実習	子ども健康学科 幼稚園教諭養成課程	幼稚園	/	72
	子ども健康学科 養護教諭養成課程	小学校・中学校 高等学校		56
	専攻科 子ども健康学専攻	小学校・中学校 高等学校		16
保育実習	子ども健康学科 幼稚園教諭養成課程	保育所	65	50
		児童養護施設等	66	25
	子ども健康学科 養護教諭養成課程	保育所	32	10
		児童養護施設等	34	27
臨床実習	子ども健康学科 養護教諭養成課程	病院・福祉施設	/	56

II. 教員免許状更新講習の受講者推移(平成21年度～平成30年度)

教員免許状更新講習とは、その時々で求められる教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能を身につけることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目指すため、現職教員、教員採用内定者、教員経験者等を対象に平成21年4月1日から導入されたものである。本学においては、平成21年度から教員免許状更新講習を実施しており、講座数および受講者数は以下のとおりである。

	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
講座数	15	16	20	20	17	17	19	21	19	20
受講者数	155	838	1,484	1,426	1,098	1,193	1,046	1,406	1,255	1,308



III. 2019年度 教員免許状更新講習の開設予定講座

日程	領域	講座名	講師名	定員数	講座名	講師名	定員数
8/8 (木)	必修	①教育の最新事情(幼・小)	黒田・鎌田 村上	140	②教育の最新事情(中・高・養)	黒田・鎌田 村上	90
8/9 (金)	選択 必修	③学校の近年の状況変化と 危機管理上の課題(幼・小)	宮本・大江	140	④学校の近年の状況変化と 危機管理上の課題 (中・高・特支)	神代・宮本	90
8/20 (火)	選択	⑤「筆えんぴつ」による手書 き文字教育の試み	大迫	140	⑥小児生活習慣病を予防する 日本食の力	巴・崎山 白石・山本	50
		⑦漢字のはなし	古木	30	⑧発達障害児の理解と支援	堀江・石黒 阪木	72
8/21 (水)	選択	⑨「生きる力」を育む表現・ 造形遊び	谷口	50	⑩体験的な学習を導入した食 育について	糺須海	30
		⑪コンピュータを使わないコ ンピュータ科学入門	宮本・福島	55	⑫教室の中の宮沢賢治	荻原	50
		⑬児童・生徒のこころのあり かたと教育相談による支援	友納	55			
8/22 (木)	選択	⑭文系でまなぶプログラミン グ入門	宮本・城	55	⑮表現講座	青山・中村	60
		⑯古典に親しむ —源氏物語の世界—	荻原	50	⑰社会保険を主題材にしたAL による教材作成	田中	30
		⑱英語コミュニケーションの 基礎	ダータル	50			

参考資料

I. 地域教育実践研究センターの各種委員会構成員

地域教育実践研究センター運営委員会	
巴 美樹	地域教育実践研究センター 所長 学生部長 家政学部栄養学科 教授
澤田小百合	地域教育実践研究センター 副所長
宮本 和典	教務部長 共通教育機構 教授
西田真紀子	家政学部人間生活学科 教授
神代 明	人間科学部人間発達学科 特任教授
佐方はるみ	人間科学部人間発達学科 特任教授
春高 裕美	人間科学部人間発達学科 講師
鍋田 智広	人間科学部人間発達学科 講師
大迫 正一	共通教育機構 准教授
細井 陽子	共通教育機構 講師
津山 美紀	子ども健康学科 教授
植田 武志	事務局長
十河 功一	教務・入試課 課長
松田裕次郎	地域教育実践研究センター 主事

地域教育実践研究センター外部評価委員会	
巴 美樹	学内委員 地域教育実践研究センター 所長
澤田小百合	学内委員 地域教育実践研究センター 副所長
本郷 宣昭	学外委員 芦屋町 企画政策課企画係 係長
小田 聡	学外委員 北九州商工会議所 産業振興部 部長
成重 純一	学外委員 北九州市立折尾西小学校 校長
大塚 友江	学外委員 北九州市小倉社会事業協会 理事
桑原 正樹	学外委員 協同組合折尾商連 事務局長
西田真紀子	学内委員 家政学部人間生活学科 教授
佐方はるみ	学内委員 人間科学部人間発達学科 特任教授
大迫 正一	学内委員 共通教育機構 准教授
津山 美紀	学内委員 子ども健康学科 教授
植田 武志	学内委員 事務局長

II. 地域教育実践研究センターの運営委員会等年間実績

日程		学内委員会等	外部との会議等	
4月			11日 27日	第1回水巻町との連携会議 第1回芦屋町との連携会議
5月	24日	第1回地域教育実践研究センター運営委員会	18日	第1回北九州市との連携会議
6月				
7月			30日	第1回北九州・下関まなびとびあ低学年向けWG(COC+)
8月			21日	第2回水巻町との連携会議
9月	27日	第2回地域教育実践研究センター運営委員会		
10月	23日	第1回地域教育実践研究センター外部評価委員会	18日	第1回北九州・下関まなびとびあSDGs人材育成WG(COC+)
11月			7日～ 29日	第2回北九州・下関まなびとびあ低学年向けWG(COC+) ※メール会議
12月	6日	第3回地域教育実践研究センター運営委員会		
1月			18日	第3回水巻町との連携会議
2月			15日 18日	第4回水巻町との連携会議 第2回芦屋町との連携会議
3月	6日 26日	第2回地域教育実践研究センター外部評価委員会 第4回地域教育実践研究センター運営委員会	1日 12日	第2回北九州・下関まなびとびあSDGs人材育成WG(COC+) 第3回北九州・下関まなびとびあ低学年向けWG(COC+)

Ⅲ. 地域教育実践研究センター外部評価委員会報告

平成30年度は、地域教育実践研究センター外部評価委員会を2回開催した。第1回委員会(平成30年10月23日開催)では、平成29年度の連携事業の実績を報告し、平成30年度の連携事業の進捗を共有・確認した。第2回委員会(平成31年3月6日開催)では、平成30年度の事業実績を報告し、2019年度の事業計画を共有した。本委員会の中で、以下のとおり学外委員から意見を徴した。

学外委員	意見
芦屋町	<ul style="list-style-type: none"> • 昨年度同様、貴学と密接に連携会議および連携事業に取り組んでおり、幼児から高齢者まで、様々な分野で連携事業を実施することができていることから、今後も継続して事業を展開していきたい。 • 課題発見プログラムについて、今年度は芦屋町をフィールドに役場職員も参加し、職員自身にとっても学ぶ機会となった。公開講座については、是非継続して欲しいと住民の方から多数の声があがっているため、今後も継続していきたい。
北九州商工会議所	<ul style="list-style-type: none"> • 企業と大学の接点を確保するため、新規事業として「企業と大学との情報交換会」を実施した結果、貴学を含め、様々な企業と大学が参加し、交流を深めることができた。是非、学生の就職関係に活用していただきたい。 • 課題解決型インターンシップについて、企業が抱える課題を具体的に提案するインターンシップを実施し、貴学の学生3名に参加いただいた。
北九州市立小学校	<ul style="list-style-type: none"> • グリーンティーチャーについて、貴学の学生が実際の教育現場を体験できるよう、受入学校側も慎重に業務内容を精査していくため、本活動に取り組んでもらいたい。 • 多様化する学校現場の中で貴学の学生は、本当に頑張っており、児童のケア等、特別支援の観点からも児童を見ていただき、とても助かっている。
北九州市小倉社会事業協会	<ul style="list-style-type: none"> • 事業協会が運営している老人ホーム等において、機会があれば災害食レシピを教授していただきたい。 • 就職前に保育現場を知ることが重要であるため、学生には積極的にボランティア事業を活用していただきたい。
協同組合折尾商連	<ul style="list-style-type: none"> • 学園大通り活性化プロジェクトの今後の展開として、学園大通りのベンチのリペイント、イルミネーションのデザイン等を予定しているため、貴学の学生からの意見・アイデアを聴きたい。 • 学園大通り活性化事業について、ベンチのリペイントやイルミネーションの設置を行った。イルミネーションの点灯式を行い、貴学の学生が司会として進行してくれた。

Ⅳ. 地域教育事業一覧(平成25年度～平成29年度)

本学の地域教育事業の実態を分析するため、平成25年度から各学科・専攻等で地域に学生を派遣している事業について、カリキュラム内とカリキュラム外の派遣事業、および派遣人数等を以下のとおり調査してきた。

事業内容		H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度		
		実数	実数	実数	実数	実数	延べ数	
人間生活学科	カリキュラム内(学外実習)	教育実習・介護等体験	49	56	53	70	59	59
	カリキュラム内(一般科目)	地域生活学演習等	28	42	90	136	205	205
	カリキュラム外	学童クラブ等	9	17	102	126	134	499
	計		86	115	245	332	398	763
栄養学科	カリキュラム内(学外実習)	栄養教育実習・臨地実習等	276	169	346	240	257	257
	カリキュラム外	NADAC研修会(H25.26)・自治体との連携事業	20	33	0	42	28	39
	計		296	202	346	282	285	296
人間発達学科 (人間発達学専攻)	カリキュラム内(学外実習)	初等教育実習・保育所実習・介護等体験等	550	624	613	574	553	553
	カリキュラム内(一般科目)	キャリアデザイン・卒業研究演習等	576	622	834	696	536	864
	カリキュラム外	グリーンティーチャー等	554	629	500	475	407	3,886
	計		1,680	1,875	1,947	1,745	1,496	5,303
人間発達学科 (人間基礎学専攻)	カリキュラム内(学外実習)	中等教育実習・介護等体験等	110	102	87	95	77	77
	カリキュラム内(一般科目)	図書館概論等	149	118	330	128	120	126
	カリキュラム外	図書館ボランティア・書道ボランティア等	32	138	58	83	208	424
	計		291	358	475	306	405	627
共通教育機構	カリキュラム内	日本事情	28	20	20	10	20	20
	カリキュラム外	日本文化研修	33	56	71	80	72	72
	計		61	76	91	90	92	92
子ども健康学科	カリキュラム内(学外実習)	教育実習(幼稚園)・養護実習・保育所実習等	814	972	885	796	826	1,034
	カリキュラム外	キャラバン隊・自主実習等	470	361	330	347	336	482
	計		1,284	1,333	1,215	1,143	1,162	1,516
子ども健康学専攻	カリキュラム内(学外実習)	養護特別実習	—	—	27	17	28	28
	カリキュラム外	スクールヘルパー	—	—	10	10	25	150
	計				37	27	53	178
合計			3,698	3,959	4,356	3,925	3,891	8,775

V. 地域活性学会「第10回研究大会」発表要旨

自治体との包括的地域連携協定による連携事業

— 芦屋町における「九女型人材育成プログラム」の実践 —

○澤田小百合(九州女子大学・九州女子短期大学)・西田真紀子(九州女子大学)

Keyword : 連携事業、地域課題解決、実践教育

【目的・背景】

九州女子大学・九州女子短期大学(以下、「本学」)では、「地域に根ざした実践教育を展開する大学」として、平成27年6月1日に地域教育実践研究センター(以下、「本センター」)を設置した。本センターでは、「学生の質保証の強化」、「大学の教育・研究機能の活用」および「地域との共生」の3本柱を軸として、本学の地域貢献(型)による大学創りに取り組んでいる(図1)。

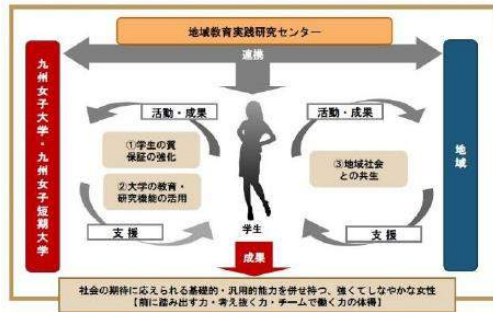


図1 地域教育実践研究センターの役割

その地域貢献(型)による大学創りの取り組みの一つとして、実践教育の場で社会の期待に応えられる学生の育成、ならびに芦屋町の地域課題解決のため、平成28年3月に「包括的地域連携に関する協定」を締結した。

本報では、平成28年度から平成29年度までの芦屋町をフィールドとした「九女型人材育成プログラム(芦屋町課題発見プログラム)」の取り組みを報告する。

【実践内容】

九女型人材育成プログラムの実践方法

1. 課題解決型ワークショップ

(目的)

本学の人材育成ビジョンとして基本的・汎用的能力を持つ強くしてしなやかな女性の育成を掲げている。特にこれからの社会で必要となる力として、知識を活用して問題を解決するリテラシーと人と自分に最適な状態をもたらそうとするコンピテンシーをあわせ持つジェネリックスキルを身につけさせることを目的としている。

(対象学生)

九州女子大学 家政学部 人間生活学科 1年生 34名

(内容)

芦屋町の課題について、ジグソー学習法を用いて、課題解決学習を実施する。

①個人読解

一人一種類の教材を読み込む

②専門家グループ

同じ教材を担当する学生同士が内容を互いに確認のうえ共有し、共有した内容を他者へ伝える方法を考える。

③ジグソー

元のグループに戻り、確認した資料を互いに説明し、全資料から見えてくる全体像をまとめる。

(効果)

ここでは、リテラシーを育成するため、本学の学生が一番苦手とする問題解決力を情報収集、情報分析、課題発見をすることで想像力を養い、問題を解決する力を身につける。



図2 課題解決型ワークショップの流れ

2. ファシリテーターの養成

前年度に九女型人材育成プログラムで課題解決型ワークショップ経験者である人間生活学科の2年生の中でファシリテーター養成の希望者を対象に約1年間、芦屋町の課題発見を行う準備を進める。

①芦屋町についての調査

芦屋町の散策、自治体の説明、町民とのグループワークなどを経て芦屋町を知る。

②課題テーマの設定

芦屋町で調査した内容について、BS法、KJ法を用いて課題テーマを抽出する。テーマ決定後、カテゴリーに分類し、カテゴリー毎に小テーマを設け、資料内容を決定していく。

③資料作成

課題テーマに基づき、カテゴリー別の小テーマ毎に班別に資料を集める。複数の資料を持ち寄り、資料の有効性を精査し、ジグソー学習のためのワークシートを作成する。このワークシートについては、ワークの回答まで作成し、資料集とワークシートに大別し、資料を完成させる。

④課題解決型ワークショップ

芦屋町の一定の知識を1年間で学習した学生(人間生活学科2年生)が、芦屋町の知識を有しない学生(人間生活学科1年生)に対し、ジグソー学習法を用いて芦屋の課題を解決し、成果発表を行なう。



図3 芦屋町とのグループディスカッションの様子

【実践結果】

芦屋町が抱える課題を課題解決型のワークショップにおいて、具体的内容を提示し、4項目のカテゴリー別に分類した(表1)。

表1 具体的内容および分類分け

具体的内容
①はまゆう公園で行うイベントを企画し、SNSで発信する。(牛乳パックランタン作り)
②観光ポスターをいろんな場所に貼り、多くの人目に入るようにする。(ポスターにQRコードを付け、芦屋町のホームページへ移動するようにする。)
③カフェを開いてくれる人を、SNSやポスターを使って募集し、補助金をPRする。
④今ある補助金や施設、支援制度、住みやすい環境をSNSやポスター、地方メディアを利用し、発信させる。
⑤観光ツアーを開発する。
⑥月事にイベントを企画し、年中観光ができるようにして人を集客する。
⑦航空自衛隊やブルーインパルスファンをターゲットに、芦屋町を観光地としてPRする。
⑧マジックミラートイレを取り入れ、観光名所にする。(設置費用約21万円)
⑨はまゆう公園から徒歩5分のとと市場に名産物を置き、とと市場にも人が集まるようにする。
⑩福岡県内のウエディングプランナー養成学校と連携して、ウエディングの写真撮影などに恋人の聖地を使用する。
⑪カフェについては、イベントが無い日も人を集客するために、出店する場所を考える。
⑫恋人の聖地の通り一面に季節の花を植え、撮影スポットになるようにする。
⑬ボランティア団体(学生サークル)に依頼して、月1回の清掃活動をする。



分類項目
1. 広報(SNS・ポスター)
①イベントの企画・発信(牛乳パックランタン作り) ②観光ポスター ③カフェの併設にあたって、オーナーを募集し、補助金をPR ④芦屋町の助成金や支援制度、および住みやすい環境のPR
2. イベントの企画・実施
①はまゆう公園(牛乳パックランタン作り) ⑤観光ツアー ⑥月事にイベントを企画 ⑦芦屋航空自衛隊(ブルーインパルス)
3. 観光スポット
⑧芦屋航空自衛隊(ブルーインパルス) ⑧マジックミラートイレ ⑨とと市場(芦屋町の名産物) ⑩恋人の聖地(ウエディングプランナーと連携し、ウエディングフォトのスポットにする)
4. 観光のための環境整備
⑧マジックミラートイレの設置 ⑨とと市場に芦屋町の名産物を置く ⑪カフェの併設 ⑫恋人の聖地(花を植え、撮影スポットにする) ⑬清掃活動

その成果を芦屋町へ報告し、町が抱える課題を踏まえた実践活動として、平成29年度は、「2. イベントの企画・実施」および「4. 観光のための環境整備」の観点から、芦屋町で開催された「さわらサミット(H30.2.24、25開催)」において、学生が作成した学術パネルを展示し、このパネル付近に学生が育てた花(ピオラ[※])の花を飾りつけた。ピオラで華やかな空間を形成し、最終日には来場者に無料配布した。学生が育てたピオラを通じてさわらサミットの思い出を形に残すとともに、芦屋町の紹介カードを併せて渡すことで、町のPRを行った。

※ピオラ/育ちが早く開花時期が長いため、初心者でも育てやすい。花言葉が「信頼」であることから、本学と信頼関係の意味を込めてピオラを選定した。



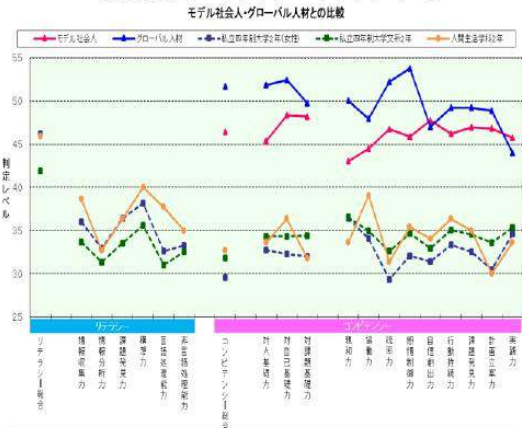
図4 さわらサミットにおいてパネルの展示・ピオラの配布

また、学生のジェネリックスキルの伸びの状況をプログテストによって客観的な評価を行った(表2、表3)。

**表2 九州女子大学対象学生1年生
(課題解決ワークショップ参加者)**



**表3 九州女子大学対象学生2年生
(課題解決型ワークショップファシリテーター)**



※グローバル人材: 25~49歳の日本人ビジネスマン。アジアにおいて、外国人マネジメント経験があり、かつ当時のマネジメントに満足している者(35名(平均在学期間約4年))

【考察・今後の展開】

プログテストは、課題解決型ワークショップ終了後、学年最後の2月に実施したものである。このプログテストにより、九女型人材育成プログラムでの2年次に実施したファシリテーター養成は、ジェネリックスキルを身につけるための一定の効果が見える。

地域活動を実践するにあたっては、その後の活動を充実した活動にするため、基礎力を身につける必要がある。この九女型人材育成プログラムは、実践力を身につけるファシリテーター養成プログラムとして位置付けていく必要がある。

また、地域活動を行なう際に活動に対してのムラをなくするため、本プログラムが本学の地域活動にどのような影響を与えていくのか、双方からの客観的なデータを基に考察していく必要がある。

【引用・参考文献】

○九州女子大学・九州女子短期大学地域教育実践研究センター『平成29年度地域連携事業報告書』

大学生の学外活動による学習成果

—九州女子大学人間生活学科の授業内における地域活動の効果—

○西田真紀子(九州女子大学)・澤田小百合(九州女子大学・九州女子短期大学)

Keyword : 地域課題解決、実践教育

【背景】

現在、わが国では人口減少とともに、少子高齢化が社会問題となっている。平成23年度から連続して人口が減少し、高齢化率は平成28年度27.3%と過去最高になっている。その中で、地域活性化を自治体、企業、大学等教育機関で行う施策がとられてきた。他方で、大学は地域を教育の場として位置付け、学生が地域で役割を果たし、その経験をもとに社会人基礎力(考え抜く力、前に踏み出す力、チームで働く力)を身につける効果を探っている。

九州女子大学家政学部人間生活学科(表1、以下「本学科」)では、地域教育実践研究センターの取り組みと連携し、「学生の質保証の強化」、「学生を中心とした地域との共生」を軸として、学生教育を行っている。入学定員40名の学科で、平成27年度からは本学科のカリキュラム(必修科目「地域生活学演習Ⅰ～Ⅶ」)の中でキャンパス外での課題発見プログラムを連続的に行ってきた。

本報では、1年次に課題解決型ワークショップを行った学生が、2年次以降に行う授業における学生主体の地域活動の中から、教員養成に特化したフィールドでの活動方法とその評価について報告する。

表1 九州女子大学の基本情報

学部・学科(専攻)	取得可能免許・資格(抜粋)
家政学部	人間生活学科 中・高教諭一種免許「家庭」 二級建築士受験資格
	栄養学科 栄養士免許 管理栄養士国家試験受験資格
人間科学部	人間発達学科(人間発達学専攻) 幼稚園教諭一種免許 小学校教諭一種免許 特別支援学校一種免許 保育士
	人間発達学科(人間基礎学専攻) 中学校教諭一種免許「国語」 高等学校教諭一種免許「国語」「書道」 図書館司書
総学生数	1,229名

【研究方法・研究内容】

本学科は多方面の免許・資格を選択し取得することができるため、地域活動内容もそれぞれの免許・資格に役立てることができる複数のフィールドを提供している。

学生は、提供されたフィールドの中から1つを選択し、1年間の活動の中で、課題を発見し、解決できるような取り組みを行う(表2)。フィールド活動は、課題解決型ワークショップを経験した2、3年生に開講し、時には2、3年生合同で活動する。活動開始前に担当教員は、活動フィールドの責任者と打ち合わせをしておくが、授

業内では学生の代表者(主に3年生)が責任者と意見交換等を行いながら目的を持って活動を行う。

表2 課題発見プログラム実施内容

回数	内容
第1回	授業内容説明、グループ分け
第2回	地域の方との顔合わせ、意見交換
第3回～第12回	各自活動(信頼関係の構築)
1～2回分	学生主体のイベント等
第15回	発表会

各期の最後に発表会を行い、個人の目的が達成されているか、発表で活動の内容・効果が伝えられているかを学科で作成した共通ルーブリック指標に基づく発表用ルーブリック指標を用いて評価した。評価者は学科教員(授業担当者外も含む)、履修学生である。学生の社会人基礎力の評価には株式会社リアセックの「プログテスト」を用いて確認した。

中・高教諭一種免許「家庭」を取得希望する学生を中心に活動できるフィールドとして、学童保育と通学合宿を提供した(表3)。

表3 各活動フィールドに携わる学生数

年度	学童保育	通学合宿
H28年度	3年生:3名 2年生:2名	3年生:5名 2年生:4名
	5名	9名
H29年度	3年生:2名 2年生:3名	3年生:4名 2年生:3名
	5名	7名

学童保育

学童保育の活動は、週2回程度のボランティア活動による児童の観察を行い、よりよい放課後の過ごし方を考え、課題を選定し、学童の指導員と調整のうえ、実践に移した。実践内容は、児童が宿題を集中して行えていないという課題について、「宿題を行う環境整備」および「宿題をしてから遊ぶ習慣づけ」を解決策として提案した。



図1 学童での宿題空間の改善策

通学合宿

通学合宿は、9月の第2週あたりの1週間(6泊7日)で行われている。活動は、主に児童の生活中的の見守り(気付きを促す発問)と調理時の衛生・安全確保等である。主催者の説明の後、3回行う事前指導の内容について調整を重ねる。学生は、この3回の事前指導時の児童の行動から、食育(調理)と児童への接し方について、自分の課題を設定し行動する。



図2 通学合宿事前指導と調理・食事の様子

【研究成果・分析結果】

学童保育では、実際に宿題時の机の配置を変え、児童がある程度集まったところで、班単位で一斉に宿題に取り組む活動を行った。改善前後にアンケート調査を行った結果、宿題に対する苦手意識が弱まり、習慣化する傾向がみられた。

通学合宿では、参加児童数が22名と例年より多かったため、1回に児童が作る調理量がかかなり増えた。事前指導で、手洗いの大切さについて教えるとともに、合宿のしおりにも手洗い、包丁の置き方、野菜の切り方を写真付きで掲載し、安全・衛生に注意した。身だしなみの確認や、学年に応じた作業への促し、配膳を助けるためのランチョンマットの導入など各自が様々な課題から児童への指導、声かけを行った。

どちらの活動も、学生主体の活動ができており、先方の責任者と学生代表(連絡担当者)との報告・連絡・相談、および学生と担当教員との報告・連絡・相談ができています。この2年間の活動が評価され、平成30年度のボランティア依頼も受け、継続した取り組みとなった。

発表の評価では、活動の目的、課題設定、実践、振り返りがしっかりまとまっており高評価を得た。また、ルーブリック評価に関しては、1年次の課題解決型ワークショップの発表時から、同じ評価指標を用いて評価を続けているため、教員評価と学生による他者評価の結果に大きな違いがみられなくなった。この結果、発表においての重要な観点や、発表に耐えうる必要な準備などを学生自身が学び取り、より地域への情報発信力が伸びていると考える。

プログテストの結果については、大きな変化はなかったが、對自己基礎力に関しては、平均より高い結果となっていた。また、構想力が低かった学生は、大きく伸びていた。

【今後の展開】

本学科には、教員免許取得希望者以外にも、多様な免許・資格取得希望者が存在する。教員免許取得希望者以外の地域活動に関するデータも分析し、地域に貢献しながら社会人基礎力を向上させる必修科目としての授業展開を探っていく必要がある。

【引用・参考文献】

- 社会人基礎力
www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/kisoryoku_image.pdf
- 九州女子大学・九州女子短期大学地域教育実践研究センター
『平成29年度地域連携事業報告書』

インターンシップ登録票

学部・学科(専攻)		学年	学籍番号	氏名	
		年			
現住所			連絡先		
〒			Tel:携帯(— —)) Tel:自宅(— —)) E-mail())		
インターンシップ先			勤務先住所		受入期間/実働日数
【緊急連絡先】 氏名: 続柄() 住所: 〒 Tel:携帯(— —)) Tel:自宅(— —))					
【インターンシップを希望する理由・目標】					
【自己PR】					

インターンシップ履歴

時期	種類	受入先	期間	日数
1回目 年度 期	文系・PBL 九イ協・山イ協			
2回目 年度 期	文系・PBL 九イ協・山イ協			
3回目 年度 期	文系・PBL 九イ協・山イ協			
4回目 年度 期	文系・PBL 九イ協・山イ協			
5回目 年度 期	文系・PBL 九イ協・山イ協			

インターンシップ報告書

記入日： 年 月 日

インターンシップ参加の成果として、項目に沿って報告書を作成して下さい。

◆学生・インターンシップ情報

氏名	学部・学科・学年	学部	学科	専攻	年
	学籍番号・氏名				
研修先					
研修期間	年 月 日 () ~ 月 日 () 日間				

◆インターンシップを志望した理由

--

◆インターンシップで経験した業務と成果

経験した業務
成果 (学んだことなど)

◆参加前に設定した自分自身の目標と自己評価

自己目標						
自己評価（達成度）						
該当する自己評価に○印を記入してください	自己評価区分	5	4	3	2	1

※自己評価区分：5（大変優れている）、4（優れている）、3（普通）、2（やや劣る）、1（劣る）

◆インターンシップに参加して感じた気づき（自分の長所や課題点、これまでの大学生活の学びの活きた点、今後大学の授業等で意識して努力すべき点等、今回の経験を通して感じた内容を具体的に記入して下さい。）

--

◆インターンシップでの経験の活用（今回の経験を今後就職や就職活動にどのように活かしていきたいか具体的に記入して下さい。）

--

ボランティア出勤簿

大学・短大名		学部・学科(専攻)		学年	年
学籍番号		氏名			
派遣先					
派遣期間	(自) 年 月 日 (至) 年 月 日 (日間)				
月日(曜日)	活動時間	累積時間 (分)	主な活動内容	印	検印
月 日()	: ~ :	分			
月 日()	: ~ :	分			
月 日()	: ~ :	分			
月 日()	: ~ :	分			
月 日()	: ~ :	分			
月 日()	: ~ :	分			
月 日()	: ~ :	分			
月 日()	: ~ :	分			
月 日()	: ~ :	分			
月 日()	: ~ :	分			
月 日()	: ~ :	分			
月 日()	: ~ :	分			
月 日()	: ~ :	分			
月 日()	: ~ :	分			
月 日()	: ~ :	分			
月 日()	: ~ :	分			
月 日()	: ~ :	分			
月 日()	: ~ :	分			
月 日()	: ~ :	分			
月 日()	: ~ :	分			
集計欄		活動日数	合計	日	
		活動時間	合計	時間	分

上表の通り出勤したことを証明します。
ボランティア担当教員

印

ボランティア協力先

印

ボランティア活動日誌

担当教員 ()

学部・学科(専攻)		学年	年	学籍番号	
氏名		派遣先			

第 回	年 月 日 () 時 分～ 時 分(実働 時間 分)
活動・学修 内容	
感想・印象的な 事柄	
反省点・課題	
検 印	

第 回	年 月 日 () 時 分～ 時 分(実働 時間 分)
活動・学修 内容	
感想・印象的な 事柄	
反省点・課題	
検 印	

編集後記

本誌は、平成30年度に九州女子大学・九州女子短期大学、および地域教育実践研究センターで実施した地域連携事業を皆様にご報告するため、発行いたしました。

平成30年度は、研究活動に重点を置いて取り組み、地域活性学会において、本学の課題発見プログラムの実践事例、および学外活動による学修成果について発表しました。また、水巻町との共同研究事業を引き続き取り組むとともに、新たに水巻町の特産品を活用した学校給食向けのレシピを開発しました。

北九州市や芦屋町等との地域連携事業につきましても、新たな事業を立ち上げ、事業の拡充を図りました。また、組織的に連携事業の客観性を担保しつつ、一層の改善に資するため、外部評価委員会を定期的に開催し、外部の組織、地域の方々のご意見等を頂戴することで自己点検・評価活動に繋げました。

本誌を契機として、皆様と新たな連携事業を実施できることを期待するとともに、本学の地域連携活動、および地域貢献活動のさらなる発展を目指してまいります。

地域教育実践研究センター 所長 巴 美樹

平成30年度 地域連携事業報告書

発行：2019年3月31日

編集：学校法人福原学園 九州女子大学・九州女子短期大学
地域教育実践研究センター

〒807-8586 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1

Tel：093-693-3118 Fax：093-693-8203

E-mail：chiiki-c@fains.jp

